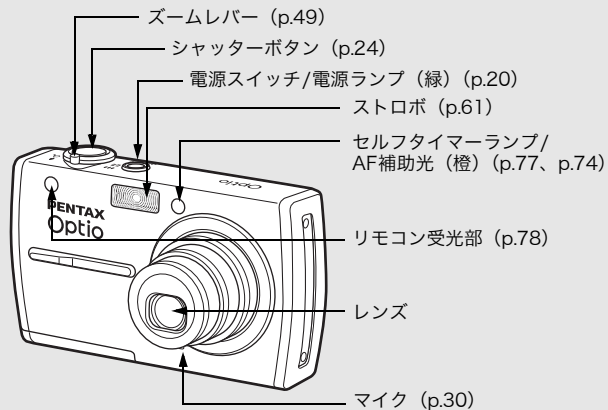
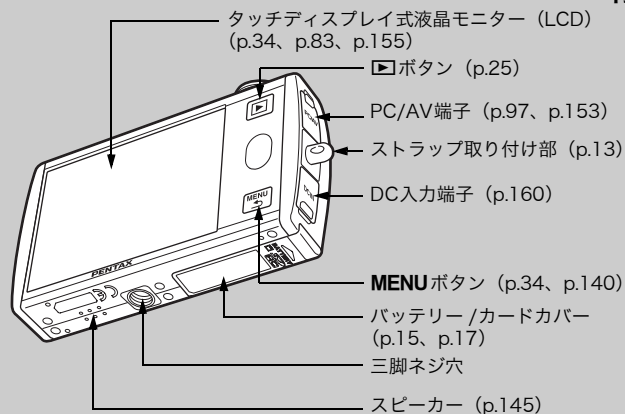
PENTAX®

デジタルカメラ

Optio T30

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に
必ずこの使用説明書をご覧ください。

設定の入り口は、3つだけ

▶ボタン、**MENU**ボタン、液晶モニターのどれかに触れるだけで、いろいろな操作や設定ができます。

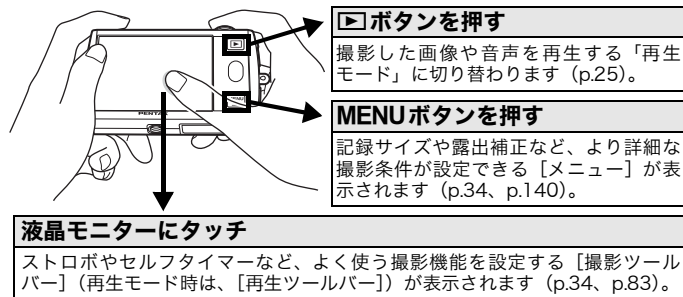
▶ボタンを押す

撮影した画像や音声を再生する「再生モード」に切り替わります（p.25）。

MENUボタンを押す

記録サイズや露出補正など、より詳細な撮影条件が設定できる［メニュー］が表示されます（p.34、p.140）。

液晶モニターにタッチ

ストロボやセルフタイマーなど、よく使う撮影機能を設定する［撮影ツールバー］（再生モード時は、［再生ツールバー］）が表示されます（p.34、p.83）。

タッチディスプレイの使い方

指でカメラの液晶モニターを直接タッチして操作できます。
写真の加工など細かな作業には、付属のスタイラスペンが便利です。

タッチ

タッチディスプレイを押して離す動作です。
押したときにアイコンが選択され、離したときに設定が決定されます（選択したアイコンによっては、設定が決定される前に機能の説明をするガイド画面が表示されます）。
２秒以上押し続けると、選択が解除されます。
ツールバーを表示したり、アイコンを選択するときなどに使います。
矢印アイコン（▲▼◀▶）は、押し続けると、設定値の変更やページ送り操作となります。

ダブルタッチ

タッチディスプレイをすばやく２回押して離す動作です。
ガイド画面を表示させずに、直接機能の設定をしたいときに使います。

ドラッグ

タッチディスプレイを押したまま、動かす動作です。
表示している画像の範囲を変更したり、バーを操作することで値を変更することなどができます。
選択するアイコンを間違えてしまったときは、そのまま他のアイコンまでドラッグして指を離すと、そのアイコンを選択できます。

画面の表示

写真の撮影時および再生時の表示です。

撮影時

再生時

A1　撮影モード……43
A2　ストロボモード……61
A3　ドライブモード……35
A4　フォーカスモード……71
A5　フォーカスフレーム……73
A6　手ぶれ警告……70
A7　シャッター速度……52
A8　絞り値……52
A9　デジタルズーム……50
A10　メモリーの種類……20
A11　撮影可能枚数……54、57
A12　バッテリー残量……16
A13　現在の日時……143
A14　ワールドタイム設定中……147
A15　露出補正値……58
B1　記録サイズ……53
B2　画質……53
B3　ホワイトバランス……63
B4　測光方式……60
B5　感度……75
B6　ヒストグラム……59

C1　ボイスメモ……125
C2　メモリーの種類……20
C3　フォルダ番号……152
C4　ファイル番号
C5　バッテリー残量……16
C6　プロテクト……102
C7　ボイスメモ再生……92
C8　撮影日時
C9　ページ送り……25
D1　記録サイズ……53
D2　画質……53
D3　ホワイトバランス……63
D4　測光方式……60
D5　感度……75
D6　シャッター速度……52
D7　絞り値……52
D8　ヒストグラム……59

※ D1～D8は、［標準+ヒストグラム］表示のときのみ表示されます（p.86）。

※ B1～B6は、［標準+ヒストグラム］表示のときのみ表示されます（p.41）。
※ 画面の表示は、アイコンの表示位置を示すための例です。

「白とび」「黒つぶれ」表示について（標準＋ヒストグラム表示のとき）
被写体の中で明るすぎて白くとんでしまう部分がある場合、その部分が赤の点滅で警告表示されます。また暗すぎて黒くつぶれてしまう部分がある場合、その部分が黄色の点滅で警告表示されます。

本書の構成

実際にOptio T30を操作しながら、「撮影前の準備」と「このカメラの楽しみ方」をお読みいただくと、一通りの操作を体験していただけます。必要に応じてその他の章を参照していただくことで、Optio T30をより深くお楽しみいただけます。

※ 撮影した画像のパソコンへの保存方法とACDSee for PENTAXのインストール方法に関しては別紙の「PC接続ガイド」を、パソコンでの画像の加工や印刷方法に関してはACDSee for PENTAXのヘルプをご覧ください。

操作説明中で使用されている表記の意味は次のようになっています。

(注意アイコン)	操作上の注意事項を記載しています。
(メモアイコン)	知っておくと便利な情報を記載しています。
☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタルカメラOptio T30をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は、必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXおよびペンタックス、Optioおよびオプティオ、smc PENTAXはペンタックス株式会社の登録商標です。
SDロゴおよび SDHCロゴは商標です。
QuickTime™ およびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。
QuickTimeは、米国およびその他の国々で登録された商標です。
その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本機を使用するにあたって

- 強い電波や磁気を発生する施設などの周囲では、カメラが誤動作を起こす場合があります。
- 液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99%以上の有効画素数がありますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。
PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

PictBridgeについて

PictBridgeは、プリンターとデジタルカメラを直接接続して、画像をプリントアウトするダイレクトプリントの統一規格で、カメラ側から簡単な操作で画像をプリントできます。

本文中のイラストおよび液晶モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。
本説明書中ではSDメモリーカードならびにSDHCメモリーカードのことをSDメモリーカードと表現しています。

目次

##

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告　このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 注意　このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

- カメラを分解・改造などしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- 付属のスタイラスペンは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。スタイラスペンの先端で目をつついたりすると、失明やけがなどの原因となります。
- SDメモリーカードは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。
- ストラップは、乳幼児の手の届くところに置かないでください。誤って首に巻き付けたりすると、窒息やけがなどの原因になります。
- ACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外のACアダプターをご使用になったり、専用のACアダプターを指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。
- 使用中に煙が出ている、変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止してバッテリーを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ **注意**

- バッテリーをショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- 充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 63 以外は充電しないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。
- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こした時は、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分ご注意ください。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ちつづけると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- 本機の液晶モニターに傷を付けないようにご注意ください。画面をタッチするときは、指または付属のスタイラスペンを使用してください。通常のペンや鉛筆、その他の突起物は傷、故障の原因となりますので絶対に使用しないでください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

⚠ **警告**

- 指定された電源以外の電圧で使用しないでください。指定以外の電源・電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。AC指定電圧は、100-240Vです。

- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている･変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。

⚠ 注意

- ACコードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理にまげたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、ACコードの接続部をショートさせたり、さわったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器で充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 63 以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や、充電器の故障の原因となります。

取り扱い上の注意

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証についてはご容赦ください。
- このカメラはレンズ交換式ではありません。レンズの取り外しはできません。
- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 液晶面に指紋や汚れが目立つ場合には、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかるところでは使用できません。
- 破損や故障、また防水性能が損なわれる原因となりますので、強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動からは、クッションに包むなどして保護してください。万が一、強い振動・ショック・圧力などが加わってしまったら、当社のサービス窓口に点検にお出しください。
- カメラの使用温度範囲は0℃～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。

- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.19）をご覧ください。
- SDメモリーカードや内蔵メモリーに記録されたデータは、カメラやパソコン等の機能による消去やフォーマットを行っても、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。データの取り扱いや管理は、お客様の責任において行ってください。
- 破損や故障の原因になりますので、液晶モニターの表面を強く押さないでください。
- カメラを腰のポケットに入れた状態で椅子などに座ると、カメラが変形したり液晶モニターが破損する恐れがありますのでご注意ください。
- 三脚使用時は、ネジの締め過ぎに十分ご注意ください。
- 本製品に付属しているACコードD-CO24Jは、バッテリー充電器D-BC63専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

リサイクルについて

Li-ion

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープをはって、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

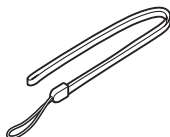
LED安全基準について

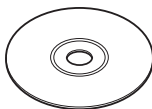
この装置は、LEDに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1適合のデジタルスチルカメラです。

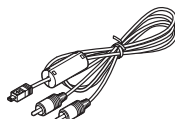
1 撮影前の準備

箱の中身を確認します

万一、不良品や不足のものがあったときは、お買い上げ販売店までご連絡ください。

本体
Optio T30

ストラップ
O-ST20（※）

スタイラスペン
O-SP63

ソフトウェア
（CD-ROM）S-SW63

USBケーブル
I-USB7（※）

AVケーブル
I-AVC7（※）

充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI 63（※）

バッテリー充電器
D-BC63（※）

ACコード
D-CO24J（※）

使用説明書（本書）

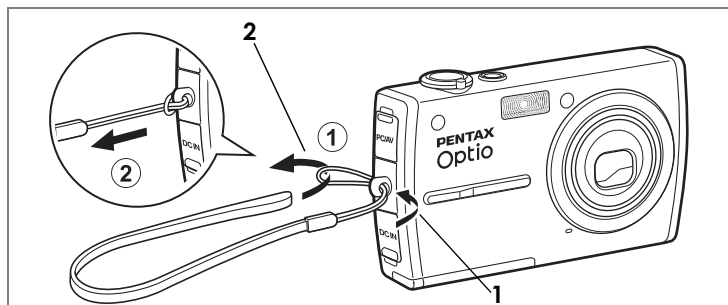
PC接続ガイド

簡単ガイド

保証書

（※）別売アクセサリーとしてもご用意しております。
その他の別売アクセサリーについては、「別売アクセサリー一覧」（p.162）をご覧ください。

ストラップを取り付けます

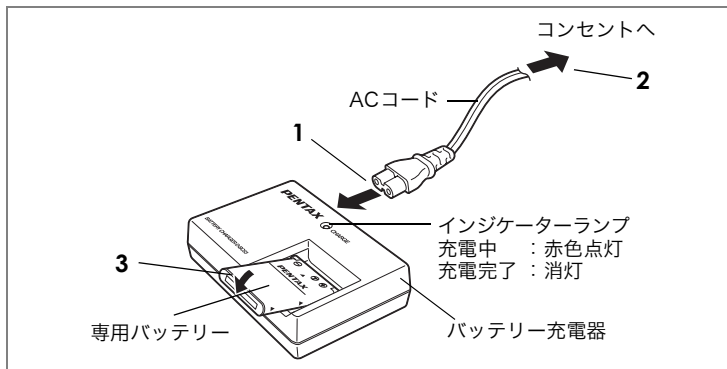
付属のストラップを取り付けます。

1 ストラップの細いひもの部分（①）を、カメラ本体のストラップ取り付け部に通す

2 ストラップ端を①の輪に通して②の方向に引っぱる

メモ

スタイラスペンをストラップに取り付けて持ち歩くこともできます。

バッテリーをセットします

バッテリーを充電します

はじめてご使用になるときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1 バッテリー充電器にACコードを接続する

2 ACコードをコンセントに差し込む

3 専用バッテリーをPENTAXロゴ面を上にしてセットする

充電中はインジケーターランプが赤色に点灯します。
充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

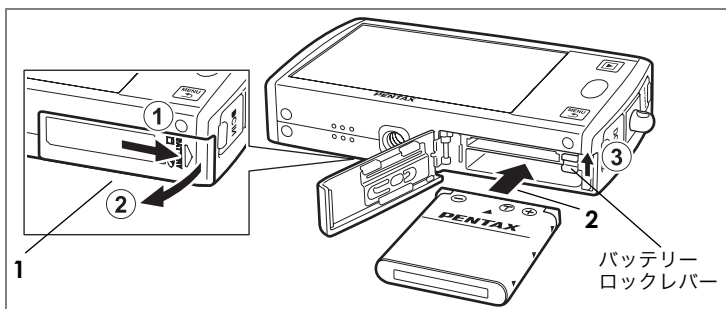
4 充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り出す

メモ

- 充電時間は、最大で約120分です。周囲の温度が0℃～40℃の範囲で充電してください（周囲の温度や充電状態によって異なります）。
- 正しく充電しても使用できる時間が短くなったらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。

注意

- 付属のバッテリー充電器では、専用の充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 63以外は充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケーターランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。

バッテリーを入れます

専用バッテリーを入れます。はじめてご使用になるときは、バッテリーを充電してから入れてください。

1　バッテリー /カードカバーを開ける

バッテリー /カードカバーを①の方向に引き出します。手を離すと自然に②の方向に開きます。

2　バッテリーの PENTAX ロゴマークをカメラの液晶モニター側に向け、バッテリーの側面でバッテリーロックレバーを矢印③の方向に押しながら挿入する

ロックされるまでバッテリーを挿入してください。

3　バッテリー /カードカバーを閉じる

バッテリーを取り出します

1　バッテリー /カードカバーを開ける

2　バッテリーロックレバーを矢印③の方向に押す

バッテリーが少し飛び出すので、引き抜いてください。

注意

- このカメラの専用バッテリーは、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 63です。他のバッテリーを使用すると、カメラが破損し作動しなくなることがあります。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると故障の原因になります。
- 電源スイッチがオンのときはバッテリーを取り出さないでください。
- カメラを長時間使用しない場合はバッテリーを取り出した状態で保管してください。
- バッテリーを長時間取り出していると、日時の設定がリセットされることがあります。

写真撮影可能枚数と再生時間の目安
(23℃・液晶モニター点灯・専用バッテリーフル充電時)

写真撮影可能枚数※1 (ストロボ使用率50%)	再生時間※2
200枚	170分

※1： 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります（CIPA 規格抜粋：液晶モニター ON、ストロボ使用率50%、23℃)。
※2： 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。

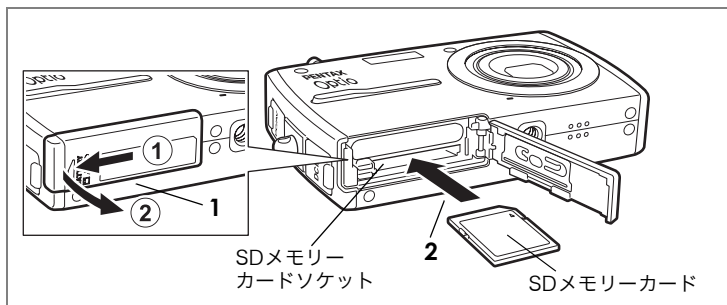
メモ

- 使用環境の温度が下がると、バッテリーの性能が低下することがあります。
- 海外旅行など長期のおでかけ、寒冷地で撮影する場合や、大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

バッテリーの残量表示

液晶モニターに表示された▮▮▮で、バッテリーの残量を確認できます。

画面表示	バッテリーの状態
▮▮▮（緑）	バッテリーがまだ十分に残っています。
▮▮（緑）	少し減っています。
▮（黄）	だいぶ減っています。
□（赤）	残量がほとんどありません。
電池容量がなくなりました	メッセージ表示後、電源がオフとなります。

SDメモリーカードをセットします

このカメラでは、SDメモリーカードをご使用いただけます。SDメモリーカードをセットすると、撮影した画像や録音した音声はSDメモリーカードに記録されます。SDメモリーカードをセットしていないときは、内蔵メモリーに記録されます（p.20）。

注意

- SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。
- 未使用または他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。フォーマットについては「フォーマットする」（p.142）をご覧ください。

1 バッテリー /カードカバーを開ける

バッテリー /カードカバーを①の方向に引き出します。手を離すと自然に②の方向に開きます。

2 SD メモリーカードの表面（ラベルのある面）をカメラのレンズ側に向け、カメラのSDメモリーカードソケットに挿入する

カードはカチッと音がするまでしっかり押し込んでください。カードがしっかり入っていないと、画像や音声が正常に記録されないことがあります。

3 バッテリー /カードカバーを閉じる

メモ

- 撮影できる写真の枚数は、使用するSDメモリーカードの容量と写真の［記録サイズ］と［画質］の設定によって異なります（p.54、p.57）。
- SDメモリーカードにアクセス中（データの記録や読み出し中）は、電源ランプが点滅します。

データバックアップのおすすめ
内蔵メモリーに記録されたデータは、故障などの原因でまれに読み出しができなくなることがあります。大切なデータは、パソコンなどを利用して、内蔵メモリーとは別の場所に保存しておくことをおすすめします。

SDメモリーカードを取り出します

1 バッテリー /カードカバーを開ける

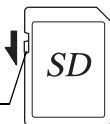
2 SDメモリーカードを中に押し込む

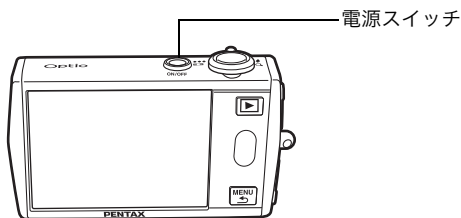
SDメモリーカードが少し飛び出すので、引き抜いてください。

3 バッテリー /カードカバーを閉じる

SDメモリーカード使用上の注意

- カードカバーを開けるときは、必ず電源を切った状態で行ってください。
- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチを「LOCK」側に切り替えると、新たにデータを記録、消去またはカードのフォーマットをすることが禁止され、それまで保存したデータが保護されます。

ライトプロテクトスイッチ

- カメラ使用直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへのデータ記録中や、画像・音声の再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- 未使用または他のカメラで使用したカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。フォーマットについては「フォーマットする」(p.142)をご覧ください。
- SDメモリーカードのフォーマット中には絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で消去される場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間カードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータ記録中、またはデータ読み出し中にカードを取り出したり、ACアダプタやバッテリーを抜いたとき
- SDメモリーカードには寿命があります。長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や、保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。
- 一部の書込み速度の遅いSDメモリーカードでは、動画撮影時にカードに空き容量があっても途中で撮影が終了したり、撮影・再生時に動作が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。
- フォーマットしたSDメモリーカードでも、市販の修復ソフトを使用するとデータを再び取り出せることがあります。廃棄の際はSDメモリーカード本体を物理的に破壊し、譲渡の際は市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってSDメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

電源をオン/オフします

1 電源スイッチを押す

電源がオンになり、撮影できる状態（撮影モード）になります。
カメラの電源を入れたときに、「Language/言語」画面が表示された場合は、p.21の手順に従って設定を行ってください。

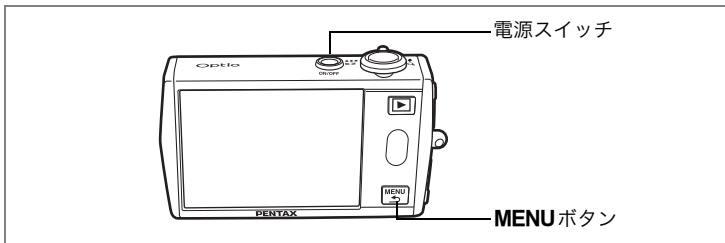
2 もう一度電源スイッチを押す

電源がオフになり、電源ランプが消灯します。

カードチェック

電源をオンにすると、カードチェックが自動的に行われ、メモリーの種類が液晶モニターに表示されます。SDメモリーカードがセットされているときは□が、セットされていないときは◎が表示されます。◎が表示されているときは、画像や音声は内蔵メモリーに記録されます。
またSDメモリーカードのライトプロテクトスイッチがLOCKになっていると、□の代わりに□が表示されます。この場合、画像や音声の記録はできません。

初期設定をします

ご購入後、最初にお使いになる前に、言語と日時を設定します。

カメラの電源を入れると、「Language/言語」画面が表示されます。以下の手順に従って、言語と現在の日時を設定をしてください。

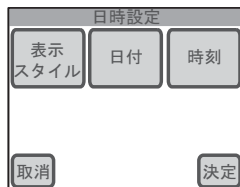
言語と日時を設定します

1 ［日本語］をタッチする

「初期設定」画面が表示されます。

［日本語］を選択すると、［現在地］は［東京］に自動的に設定されます。そのため、日本で使用する場合は、［現在地］を設定する必要はありません。

2 ［決定］をタッチする

「日時設定」画面が表示されます。

「初期設定」画面で［決定］をタッチせずに**MENU**ボタンを押すと、使用する言語が設定されないまま、次の「日時設定」画面が表示されます。この場合は、次回電源を入れたときに、「Language/言語」画面が表示されます。

［現在地］および［表示スタイル］の各設定は、［初期設定］で選択した言語ごとに自動的に設定されます。設定を変更したいときは、以下のページをご覧ください。

- ［現在地］　　　：「［目的地］を設定する」(p.147)
- ［表示スタイル］：「日時を変更する」(p.143)

3 ［表示スタイル］をタッチする

「表示スタイル」画面が表示されます。

4 矢印アイコン（≪≫）をタッチして、年、月、日の表示順を選ぶ

［年/月/日］［日/月/年］［月/日/年］から選択できます。

5 矢印アイコン（≪≫）をタッチして、時間表示を選ぶ

［24h］(24時間表示）または［12h］(12時間表示）から選択できます。

6 ［決定］をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

7 ［日付］をタッチする

「日付」画面が表示されます。

8 矢印アイコン（ ）をタッチして、年、月、日を設定する

9 ［決定］をタッチする

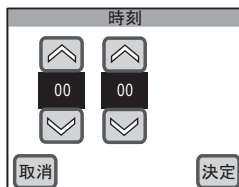
設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

10 ［時刻］をタッチする

「時刻」画面が表示されます。

11 矢印アイコン（ ）をタッチして、時刻を設定する

12 ［決定］をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

13 ［決定］をタッチする

撮影できる状態になります。

注意

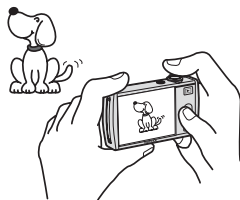
「日時設定」画面で［決定］をタッチせずにシャッターボタンを押すと、その時点で選択されている日時が設定されて、撮影できる状態になります。

ここで設定した言語と日時は、後から変更できます。操作方法は下記のページをご覧ください。

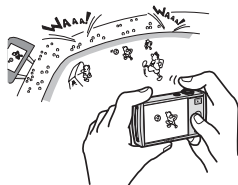
- 言語を変更したいときは：「表示言語を変更する」（p.151）
- 日時を変更したいときは：「日時を変更する」（p.143）

2 このカメラの楽しみ方

写真を楽しむ

このカメラでは、カメラを構えて構図を決め、シャッターを切るだけできれいな写真が撮影できます。また、撮影した写真の再生や加工も、液晶モニターに直接タッチする簡単操作で行えます。写真の撮影から再生、加工まで、一連の流れを体験してみましょう。

1 カメラを構えます

電源をオンにしたら（p.20）、カメラを構えましょう。手ぶれを防ぐために、カメラは両手でしっかりと持って構えてください。

2 構図を決めます

液晶モニターで構図を確認します。
撮影する範囲は、ズームレバーを使って変えることができます（p.49）。

3 ピントを合わせます

フォーカスフレーム

シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。
ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

- ピントが合わないときは、フォーカスフレームは赤色に変わります。

メモ

シャッターボタンを軽く押した状態を「半押し」といいます。シャッターボタンを半押しすると、ピントが合う位置と露出（明るさ）が固定されます。このとき、シャッターボタンから指を離すと、ピントが合う位置と露出の固定が解除されます。

4 撮影します

シャッターボタンを半押しした状態から深く押し切ると、ピント位置と露出が固定されたまま撮影されます。
撮影された画像は、液晶モニターに1秒間表示（クイックビュー）された後、保存されます。

- クイックビューの時間は、調整できます（p.81）。また、クイックビュー中に 🗑 アイコンをタッチすると、写真を保存せずに消去できます。

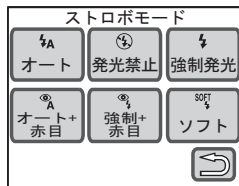
メモ

- シャッターボタンを深く押し切ることを「全押し」といいます。
- セルフタイマー（p.77）やリモコン（p.78）を使ってシャッターを切ったり、シャッターを全押ししたときに連続して撮影する（p.80）こともできます。

ストロボを上手に使うには

初期状態では、暗いときにストロボが自動的に発光します。
ストロボを発光させたくないときや明るさを弱めたいとき、人物が赤目になるのを防ぎたいときなどは、ストロボモードの設定を変更しましょう（p.61）。

<ストロボを設定するには>

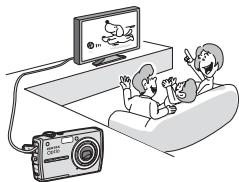
▶ 液晶モニターをタッチ→［撮影ツールバー］で ⚡A をタッチ

5 再生します

撮影後に ▶ ボタンを押すと、再生モードに切り替わり、撮影した写真が液晶モニターに表示されます（p.83）。矢印アイコン（≪≫）をタッチすると、前後の画像を表示できます。
再生モードでは、拡大（p.89）、消去（p.99）、回転表示（p.88）、9画面表示（p.90）、スライドショウ（p.95）が行えます。

<再生時の操作を選択するには>

▶ 再生モードで液晶モニターをタッチ→［再生ツールバー］で選択

TVで楽しむ

撮影した写真は、カメラで見るだけではなく、テレビなどのAV機器に映すこともできます。みんなでワイワイと、テレビの大きな画面で見るのも楽しいでしょう（p.97）。

6 加工します

撮影した写真は、加工して楽しむことができます（p.105）。
サイズと画質の変更（p.105）やトリミング（p.106）のほか、写真に絵を描く（p.108）、スタンプを押す（p.108）、フレームを付ける（p.116）、明るさを変える（p.122）、音声を付ける（p.125）、人物の赤目を補正する（p.124）などの加工ができます。

<加工方法を選択するには>

▶ 再生モードで液晶モニターをタッチ→［再生ツールバー］で をタッチ

多彩な加工機能

デジタルフィルタ

写真をソフトな感じにしたり、イラスト風にしたり、横幅を変え、やせた感じや太った感じにしたりできます（p.123）。

お絵かきモード

付属のスタイラスペンを使って写真に絵を描いたり、スタンプを押したり、一部を切り取ってスタンプにしたりできます（p.108）。

<加工方法を選択するには>

▶［再生モードパレット］で をダブルタッチ→、 をタッチ

写真撮影のヒント

撮影条件を調整してみましょう

撮影条件を自分で調整して、撮影意図をカメラに反映させることもできます。

- 写真の記録サイズと画質は、用途に合わせて変更できます（p.105）。
  ▶MENUボタン→［撮影1］→［記録サイズ］、［画質］
- 写真の明るさを調整できます。
  「露出を補正する」（p.58）　**▶MENUボタン→［撮影2］→［露出補正］**
  「測光方式を選ぶ」（p.60）　**▶MENUボタン→［撮影1］→［測光方式］**
- 写真の色合いを調整できます。
  「色合いを調整する」（p.63）　**▶MENUボタン→［撮影1］→［ホワイトバランス］**

その他、写真のシャープネス/彩度/コントラストも調整できます（p.65）。

シーンに合った撮影モードを選びましょう

撮影するシーンに合った撮影モードを選択するだけで、手軽にぴったりの雰囲気の写真が撮影できます。
写真用の撮影モードとして、オートピクチャー、プログラム、夜景、風景、花、ポートレート、Digital SR、サーフ&スノー、スポーツ、ペット、キッズ、フレーム合成、料理、テキストが用意されています（p.43）。

<撮影モードを選択するには>

▶ 液晶モニターをタッチ→［撮影ツールバー］で AUTO PICT をタッチ

2 このカメラの楽しみ方

動画を楽しむ

このカメラでは、テレビやパソコンでの視聴に最適な音声付きの動画（640×480ピクセルで30フレーム/秒）を、最大4GBのファイルサイズ（1回の動画撮影）まで撮影できます。また、撮影した動画は、その場で手軽に編集して楽しめます。

- 320×240ピクセルや15フレーム/秒の動画も撮影できます。

1 動画撮影モードに切り替えます

動画を撮影するには、撮影モードパレットを使って動画撮影モードに切り替えます。

<動画撮影モードに切り替えるには>

▶ 撮影モードで液晶モニターをタッチ→［撮影ツールバー］で AUTO PICT をタッチ→ 動画 をダブルタッチ

2 撮影します

シャッターボタンを軽く押すとピント合わせが行われ、そのまま全押しすると、撮影が開始されます。

次に、シャッターボタンを全押しすると、撮影が終了します。

撮影中、液晶モニターには左の情報が表示されます。

①録画中アイコン
②撮影可能時間

3 再生します

撮影後に ▶ ボタンを押すと、再生モードに切り替わり、撮影した動画が液晶モニターに表示されます。
再生モードでは、逆方向に再生、一時停止、音量の調整、コマ戻しやコマ送りができます(p.93)。

4 加工します

撮影した動画の1コマを静止画に保存(p.127)したり、動画分割(p.128)や動画結合(p.129)ができます。

<動画の加工方法を選ぶには>

▶ 液晶モニターをタッチ→[再生ツールバー]で をタッチ→ をダブルタッチ→ をタッチ

動画撮影でできること、できないこと

<できること>

- 撮影開始前の構図決定には、光学ズームとデジタルズームの両方が使用できますが、撮影中はデジタルズームのみ使用可能です(p.49)。
- シャッターボタンを押し続けている間(1秒以上)、撮影できます。
- [記録サイズ][フレームレート][画質][カラーモード]を変更できます(p.55)。
- [ホワイトバランス][シャープネス][彩度][コントラスト]を設定できます(p.63、p.65)。
- 撮影前のみ、[露出]を補正できます(p.58)。

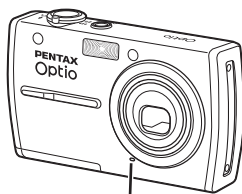
<できないこと>

- [ストロボモード][連続撮影][オートブラケット]は使えません。
- 以下の撮影条件は、変更できません。
  [AF補助光]:「オフ」(p.74)
  [測光方式]:「分割測光」(p.60)
  [感度]:「AUTO」(p.76)

2 このカメラの楽しみ方

録音して楽しむ

このカメラでは、最長24時間（1回の録音）まで、音声を録音できます。録音時にインデックスを付け、聞きたいところをすばやく呼び出すことも可能。また、写真に音声メモを付けることもできます。

1 ボイスレコーディングモードに切り替えます

音声を録音するには、[撮影モードパレット]を使ってボイスレコーディングモードに切り替えます。

<ボイスレコーディングモードに切り替えるには>
▶ 撮影モードで液晶モニターをタッチ→［撮影ツールバー］で AUTO PICT をタッチ→ 🎙 をダブルタッチ

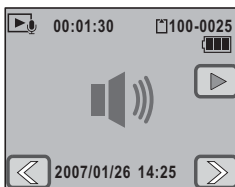
2 録音します

シャッターボタンを全押しすると、録音が開始されます。録音中は、セルフタイマーランプが点滅します。
録音中にシャッターボタンを全押しすると、録音が終了します。
シャッターボタンを1秒以上押し続けると、押している間だけ、録音ができます。
録音中、液晶モニターには以下の情報が表示されます。
①録音時間
②録音可能時間

インデックスを使って快適再生

録音中にMENUボタンを押すと、録音中の音声にインデックスを付けることができます。ポイントとなる個所にインデックスを付けておくと、再生時にすばやく目的の個所に飛ぶことができ、後からチェックしたいときなどに便利です。

- 再生中にインデックスを付けることはできません。

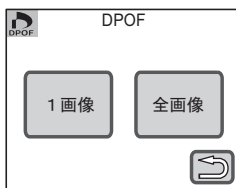
3 再生します

録音後に▶ボタンを押すと、再生モードに切り替わります。
再生モードでは、早送り、早戻し、音量の調整ができます。録音中にインデックスを付けた場合は、インデックスまでの早送り、早戻しが可能です（p.94）。

写真に音声メモが付けられます

撮影した写真に60秒間まで音声メモを付けることができます。どんな場面だったのかがわかるように音声メモを付けておけば、写真の整理に役立ちます（p.125）。

印刷して楽しむ

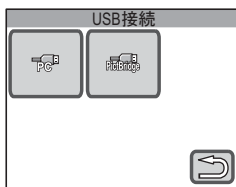
気に入った写真や加工した写真は、プリントして残しておくこともできます。カメラでプリント枚数や日付プリントの有無を設定し、プリントサービス店に依頼することができます。また、カメラとプリンターを直接つないでプリントすることも可能。友人や知人に贈ったり、思い出を手元に残すなど、写真の楽しみがさらに広がります。

1 プリント予約します

プリントしたい写真は、あらかじめプリント枚数や日付プリントの有無を「プリント予約」しておきましょう（DPOF設定）（p.132）。
プリント予約（DPOF設定）した写真は、DPOF対応プリンターやプリントサービス店でプリントできます。

- プリントサービス店を利用する場合は、プリント予約した写真が入ったSDメモリーカードを持ち込んで、プリントを依頼してください。

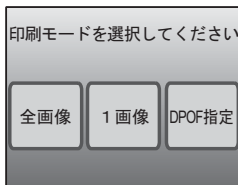
<DPOF設定するには>

▶ **再生モードで液晶モニターをタッチ→［再生ツールバー］でをタッチ→をダブルタッチ**

2 [USB接続]モードを設定します

付属のUSBケーブルでカメラをPictBridge対応プリンターに接続すると、パソコンを使わなくてもカメラからダイレクトに写真をプリントできます。
カメラとプリンターをつないでプリントするためには、事前に、カメラの［USB接続］モードを「PictBridge」に設定しておく必要があります（p.153）。

<カメラの［USB接続］モードを設定するには>

▶ **MENUボタンを押す→［その他］をタッチ→［USB接続］をタッチ**

3 プリンターに接続します

付属のUSBケーブルで、カメラとPictBridge対応プリンターを接続します。プリント枚数と日付プリントの有無の設定は、プリント予約（DPOF設定）していなくても、プリント時にカメラ側で設定することもできます（p.135）。

4 印刷します

事前にDPOF設定してある場合は、［DPOF指定］をタッチして表示された画面で、［印刷］をタッチするだけで、プリントできます（p.138）。また、1枚ずつプリントしたり（p.136）、SDメモリーカードまたは内蔵メモリー内のすべての写真をまとめてプリントすることもできます（p.138）。
プリントが終わったら、カメラの電源をオフにし、カメラとプリンターからUSBケーブルを取り外します。

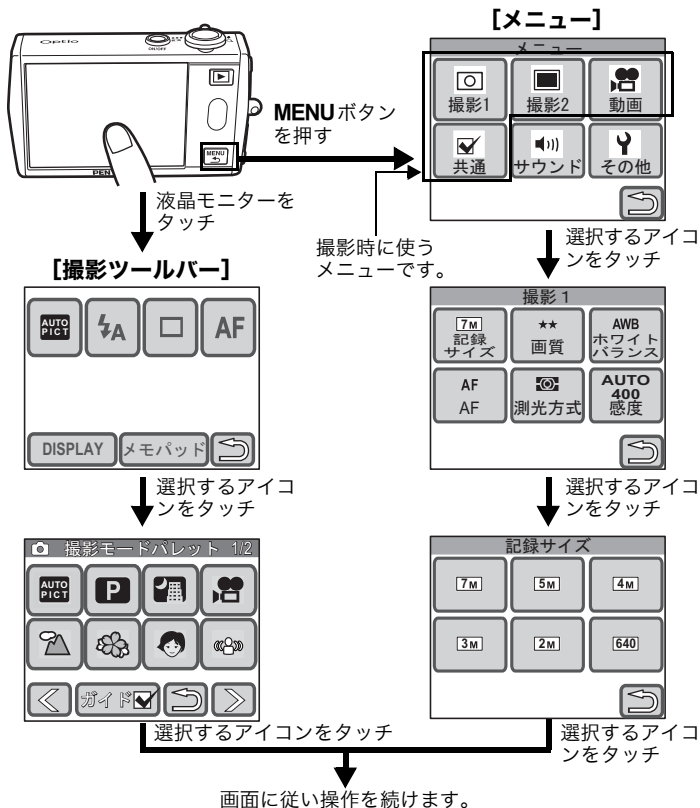
写真に日付が入れられます

写真に日付を入れておけば、いつ撮った写真か一目でわかります。日付を入れる設定は、DPOF設定をするときと印刷するときにできます（p.132、p.136、p.138）。

- プリンターによっては、日付プリントができないものもあります。

撮影のための機能を設定する

撮影モードで**MENU**ボタンを押す、または液晶モニターにタッチして設定します。

画面に従い操作を続けます。

- ［撮影モードパレット］でガイドチェックボックスがチェックされた状態でアイコンをタッチすると、ガイド画面が表示されます。ガイド画面の表示を省略したいときは、ダブルタッチします。
- シャッターボタンを押すか、一定時間以上、何も操作をしないと、撮影画面に戻ります。
- ▶ボタンを押すと、再生画面に切り替わります。
- ⮌をタッチすると、前の画面に戻ります。

［撮影ツールバー］から設定する機能

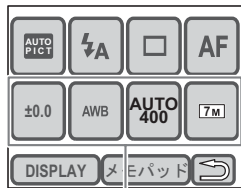
項目	内容	初期状態	参照
撮影モード	撮影状況や被写体に合わせて撮影モードを選びます。	AUTO PICT（オートピクチャー）	p.43
ストロボモード	撮影状況に合わせてストロボの発光方法を選びます。	（オート）	p.61
ドライブモード	セルフタイマー、連続撮影、オートブラケット、リモコンの設定をします。	（標準）	p.77、p.78、p.66、p.80
フォーカスモード	ピントの合わせ方を選びます。	AF（標準）	p.71
情報表示	液晶モニターにどんな情報を表示するかを設定します。	標準	p.41

［メニュー］から設定する機能

項目			内容	初期状態	参照
撮影1	記録サイズ		写真の記録サイズを選びます。	7M（3072×2304）	p.53
	画質		写真の画質を選びます。	★★（ファイン）	p.53
	ホワイトバランス		撮影時の光の状態に応じて色を調整します。	AWB（オート）	p.63
	AF	AFエリア	ピントを合わせる位置を選びます。	［　］（マルチ）	p.73
		フォーカスリミット	ピント合わせの範囲を制限します。	オフ	p.74
		AF補助光	暗いときにAF補助光を使用するかどうかを設定します。	オン	p.74
	測光方式		どの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	（分割測光）	p.60
	感度		ISO感度を設定します。	AUTO400	p.75
撮影2	露出補正		写真と動画の明るさを調整します。	±0.0	p.58
	オートブラケット		オートブラケットの項目を選択・設定します。	（露出）	p.66
	クイックビュー		撮影直後の画像表示の時間を設定します。	1秒	p.81
	シャープネス		被写体の輪郭をくっきりまたはソフトにします。	（標準）	p.65
	彩度		色の鮮やかさを調整します。	（標準）	p.65
	コントラスト		明暗差の度合いを調整します。	（標準）	p.65

項目		内容	初期状態	参照
動画	記録サイズ	動画の記録サイズを選びます。	640（640×480）	p.55
	画質	動画の画質を選びます。	★★★（S.ファイン）	p.55
	フレームレート	フレームレート（1秒間に撮る画面数）を設定します。	30fps	p.55
	カラーモード	動画の色を選びます。	フルカラー	p.57
	Movie SR	動画の手ぶれ補正を行うかどうかを設定します。	オン	p.57
共通	デジタルズーム	デジタルズームを使うかどうかを設定します。	オン	p.50
	モードメモリ	電源オフ時に撮影機能の設定値を記憶させるか、初期状態に戻すかを設定します。	ストロボモード、デジタルズーム、ファイルNo.のみオン	p.39
	Fn設定	よく使う機能をすばやく呼び出せるようにします。	OFF（オフ）	p.37

よく使う機能をすばやく呼び出す

[撮影ツールバー] には、撮影のための機能を、写真撮影時と動画撮影時でそれぞれ4つ追加登録することができます。よく使う機能を登録しておくと、撮影時にすばやく呼び出せて便利です。

追加登録した機能

写真撮影時/動画撮影時に呼び出せる機能

項目		写真撮影時	動画撮影時
撮影1/動画	記録サイズ	○	○
	画質	○	○
	フレームレート	×	○
	Movie SR	×	○
	ホワイトバランス	○	○
	カラーモード	×	○
	AFエリア	○	○
	フォーカスリミット	○	×
	測光方式	○	×
	感度	○	×
撮影2	露出補正	○	○
	シャープネス	○	○
	彩度	○	○
	コントラスト	○	○

[撮影ツールバー]に登録する

1 MENUボタンを押す

[メニュー]が表示されます。

2 [共通]をタッチする

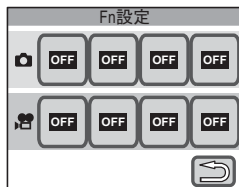
「共通」画面が表示されます。

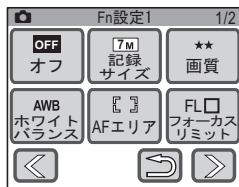
3 [Fn設定]をタッチする

「Fn設定」画面が表示されます。

4 機能を登録するアイコンをタッチする

写真撮影時に呼び出したい機能を登録する場合は、📷の右並びのアイコンをタッチします。

動画撮影時に呼び出したい機能を登録する場合は、🎥の右並びのアイコンをタッチします。

5 登録する機能のアイコンをタッチする

- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。
- 登録する機能が表示されていないときは、≪≫アイコンをタッチして、画面を切り替えます。

6 手順4〜5を繰り返し、必要な機能を登録する

7 ⮌を3回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

[撮影ツールバー]への機能の登録をキャンセルするには、手順5で OFF（オフ）をタッチします。

3
撮影する

設定を保存する（モードメモリ）

下記の機能は、カメラの電源をオフにした際に、電源オフの直前の設定内容を記憶させるかどうかを選択できます。「モードメモリ」機能をうまく活用すれば、同じ撮影条件で撮影したいときなどに、設定の手間が省けます。
下記以外の撮影のための機能は、電源をオフにした後も、常に設定内容が記憶されます。

項目	記憶される設定内容	初期状態
ストロボモード	⚡A（自動発光）以外に変更した場合のストロボモード	☑
ドライブモード	セルフタイマー、連続撮影、オートブラケット、リモコンのいずれかに切り替えた場合の設定	□
フォーカスモード	**AF**（標準）以外に変更した場合の設定	□
ズーム位置	ズームレバーで変更したズーム位置	□
MF位置	マニュアルフォーカスでピントの合う距離	□
ホワイトバランス	**AWB**（オート）以外に変更した場合の設定	□
測光方式	（分割測光）以外に変更した場合の設定	□
感度	ISO感度を変更した場合の値	□
露出補正	「±0.0」以外に変更した場合の設定値	□
デジタルズーム	デジタルズームを「オフ」にした場合の「オフ」設定	☑
DISPLAY	液晶モニターの表示内容	□
ファイルNo.	SDメモリーカードを入れ替えた場合でも、連番でファイル名を作成	☑

☑（オン）を選択すると、電源をオフにしても設定を保存します。□（オフ）を選択すると、電源をオフにしたときに、設定が初期状態に戻ります。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

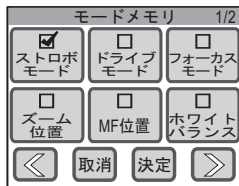
2 ［共通］をタッチする

「共通」画面が表示されます。

3 ［モードメモリ］をタッチする

「モードメモリ」画面が表示されます。

4 設定を変更する項目をタッチする

- ☑（オン）/□（オフ）が切り替わります。
- 変更する項目が表示されていないときは、≪≫アイコンをタッチして、画面を切り替えます。

5 ［決定］をタッチする

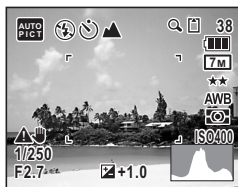
6 ⮌を2回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

撮影情報を確認する

撮影時の液晶モニターの表示内容は、以下の4通りから選択できます。表示内容の詳細は、表紙裏の「画面の表示」をご覧ください。
(画面の表示は、アイコンの表示位置を示すための例です)

[標準]

[標準+ヒストグラム]

[情報表示なし]

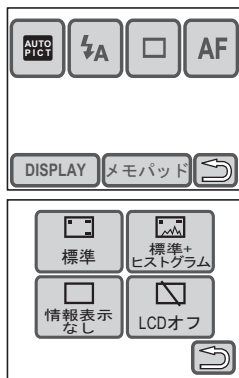
[LCDオフ]

メモ

- [LCD オフ] のときにも、すべてのボタンは使用できます。シャッターボタンを押せば、撮影できます。
- 手ぶれしやすい条件のとき、⚠✋が表示されます。手ぶれを防ぐ方法については、p.70をご覧ください。
- ヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認できます（p.59）。
- [情報表示なし] のときでも、ストロボが発光する場合は、シャッターボタン半押し時に ϟ（ストロボアイコン）が表示されます。

3
撮影する

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 ［DISPLAY］をタッチする

表示内容の選択画面が表示されます。

3 表示内容をタッチする

設定が保存され、撮影できる状態になります。

撮影モードを選ぶ

シーンに合わせて撮影モードを選ぶ

撮影するシーンに合った撮影モードを選択するだけで、手軽にぴったりの雰囲気の写真が撮影できます。写真用の撮影モードは、以下の通りです。

アイコン	撮影モード	内容	使えない機能
AUTO PICT	オート ピクチャー	適切な撮影モードをカメラが自動的に選択して撮影します。	連続撮影、オートブラケット、ホワイトバランス、測光方式、露出補正、AFエリア設定
P	プログラム	シャッター速度と絞り値をカメラが自動的に設定して写真を撮影します。その他の撮影条件は、自由に設定できます。	なし
	夜景	シャッター速度を遅くして、夜景をきれいに撮影します。手ぶれを防ぐため、三脚などで固定して撮影してください。人物も入る場合は、ストロボを発光させてください（p.47）。	ストロボ： オート、オート+赤目 ドライブ： 連続撮影
ピクチャーモード	ポートレート	人物の肌色を明るく健康的に仕上げます。	連続撮影、オートブラケット+他のピクチャーモードの使えない機能
	風景	近景から遠景まで広い範囲にピントが合うように撮影します。	ホワイトバランス、シャープネス、彩度、コントラスト、測光方式
	花	花の輪郭をやわらかめに表現します。	
	キッズ	動きの多い子供の写真をきれいに仕上げます。	
	サーフ＆ スノー	砂浜や雪山など、背景の明るい場所での写真をきれいに仕上げます。	
	スポーツ	動きの速いものを撮影するのに適しています。シャッターを切るまで動くものにフォーカスを合わせ続けます。	
	ペット	ペットの毛色に合わせた撮影をすることもできます（p.48）。	
	テキスト	文字をくっきりときれいに撮影します。また、お好みで白黒や反転に仕上げます。	
	料理	彩度をやや高めにして、料理を色鮮やかに撮影します。	

アイコン	撮影モード	内容	使えない機能
((👤))	Digital SR	より高いISO感度でぶれを軽減して撮影します。	感度
♥	フレーム合成	カメラに保存されているフレーム（飾り枠）に合わせて撮影します（p.51）。	連続撮影、記録サイズ、画質、オートブラケット、自動追尾

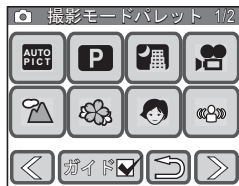
メモ

- 撮影モードが（ペット）のとき、[ストロボモード] は（発光禁止）に設定されます。[ストロボモード] は変更可能です。
- 撮影モードが（花）、（ペット）、（キッズ）、（料理）、（テキスト）のとき、[フォーカスリミット] は「オフ」に設定されますが、変更は可能です。
- 撮影モードが♥（フレーム合成）のとき、[記録サイズ] は3Mに固定されます。

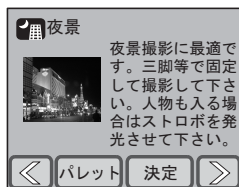
1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

[撮影ツールバー] が表示されます。

2 撮影モードアイコンをタッチする

- [撮影ツールバー] には、現在選択中の撮影モードのアイコンが表示されます。
- [撮影モードパレット] が表示されます。
- 矢印アイコン（《》）をタッチすると、撮影モードパレットが切り替わって表示されます。

3 使用する撮影モードのアイコンをタッチする

選択した撮影モードのガイド画面が表示されます。

- ガイド画面の表示を省略したいときは、アイコンをダブルタッチします。撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
- 矢印アイコン（《》）をタッチすると、前後の撮影モードが表示されます。
- [パレット] をタッチすると [撮影モードパレット] に戻ります。

4 [決定] をタッチする

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ

ガイド画面は、表示させないようにもできます（p.158）。

人物を撮影する

人物を撮影する場合は、（ポートレート）モードか（キッズ）モードを選択します。
（ポートレート）モードでは、顔認識AF機能と顔認識AE機能が働き、人物に正面からカメラを向けるだけで自動的に顔の位置を認識し、ピントを合わせ（顔認識AF）、露出調整して（顔認識AE）撮影を行います。
（キッズ）モードは、自動追尾AFが働きますので、動きの多い子供の撮影に適しています。

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 撮影モードアイコンをタッチする

- ［撮影ツールバー］には、現在選択中の撮影モードのアイコンが表示されます。
- ［撮影モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 かアイコンをダブルタッチする

- 撮影できる状態になります。
- （ポートレート）モードの場合は、カメラが液晶モニター内の被写体の顔を認識すると、顔の位置に黄色いフォーカスフレームが表示されます。それ以後、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームの位置と大きさが変化します。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ

- 被写体の顔を認識できない場合、AFエリア(マルチ)でピントを合わせます。
- 液晶モニターには、モードアイコンとフォーカスフレームだけが表示されます。その他の撮影情報は表示されません。
- サングラスなどで被写体の顔の一部がさえぎられている場合や、顔の向きが正面ではない場合は、顔認識AFと顔認識AEが働かないことがあります。
- キッズモードでは、測光方式は、分割測光に固定されます。
- オートピクチャーモードを選び、ポートレートモードになった場合も、顔認識AFと顔認識AEが働きます。
- キッズモードでは、自動追尾AFが働きます。シャッターボタンを半押ししてからも、被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。
- 顔認識作業中は連続撮影はできません。
- 顔認識作業中はデジタルズームは使えません。
- 顔認識作業中はオートブラケット撮影はできません。

カメラまかせで撮影する

AUTO PICT（オートピクチャー）モードでは、シャッターを押すだけで、カメラが最適なモードを判断して撮影することができます。
☺（標準）モード、（ポートレート）モード、（風景）モード、（夜景）モードから最適なモードを選択します。

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 撮影モードアイコンをタッチする

- ［撮影ツールバー］には、現在選択中の撮影モードのアイコンが表示されます。
- ［撮影モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 AUTO PICTアイコンをダブルタッチする

- 撮影できる状態になります。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

4 シャッターボタンを半押しする

- 被写体に合わせて最適なモードが選択されます。選択されたモードは液晶モニターの左上部に表示されます。
- ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

メモ

- オートピクチャーモードでは、露出補正は±0.0に固定されます。
- オートピクチャーモードを選び、ポートレートモードになると、顔認識AFと顔認識AEが働きます。人物に正面からカメラを向けるだけで自動的に顔の位置を認識し、ピントを合わせ、露出調整して撮影します。
- 連続撮影、オートブラケットは選択できません。
- ストロボモードがオート、オート＋赤目設定中に夜景と判断した場合は、ストロボ発光が禁止に設定されます。

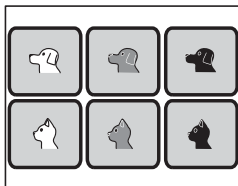
暗いところで撮影する

夕景や夜景など、光の少ない暗いところで写真を撮るには、長時間シャッターを開けて、光を取り込む必要があります。このカメラには、そんなシーンに最適な撮影モードとして（夜景）モードが用意されています。夜景モードでは、シャッター速度を遅くして、夜景をきれいに撮影します。また、夜景をバックに人物を撮影する場合にストロボを発光させても、シャッター速度が速くならないので、人物も夜景もきれいに撮影できます。

メモ

- 暗いところでの撮影では、シャッター速度が遅くなるため、手ぶれしやすくなります。手ぶれしやすいシャッター速度では、画面に（手ぶれ警告）が表示されます。手ぶれを防ぐためには、三脚やセルフタイマー、リモコンを使っての撮影が有効です。
- 暗いところでストロボを使わずに撮影するには、ISO 感度の設定を高くする方法もあります。ISO感度を高くすると、シャッター速度が速くなり、手ぶれや被写体ぶれを防ぎやすくなります。ただし、画像にノイズが増えます（p.75）。

ペットを撮影する

（ペット）モードでは、撮りたいペットの毛色が白っぽいか、黒っぽいか、中間色かでアイコンの色を選んでください。犬アイコンと猫アイコンは、絵柄が違うだけで、撮影結果に与える効果は同じです。お好みで使い分けてください。

テキストを撮影する

（テキスト）モードでは、文字をくっきりと読みやすく撮影することができます。大事な書類を画像にして保存するときやテキストの文字が小さくて読みにくいときに便利です。テキストの表示や状態に合わせて、カラー、カラー反転、白黒、白黒反転から選ぶことができます。

手ぶれや被写体ぶれを軽減して撮影する

（Digital SR）モードでは、他のモードより高いISO感度で、ぶれを抑えて撮影することができます。シャッター速度と絞りは、適切な値に自動設定されます。手ぶれや被写体ぶれが起きやすい撮影シーンでお使いください。
Digital SRモードは、ISO感度がAUTO3200に固定されます。

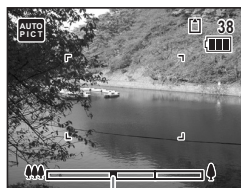
構図を決める

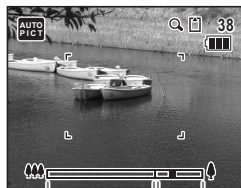
ズームを使う

ズームを使わないとき（広角側）は、遠くのものはより小さく遠近感を強調して、立体感を演出できます。ズームを使うと（望遠側）では、遠くのものが大きく写り、遠近感がなくなります。

1 撮影モードでズームレバーを ♠ 側または ♠♠♠ 側に回す

♠望遠　：写る範囲を狭くし、被写体を大きくします。

♠♠♠広角：写る範囲を広くし、被写体を小さくします。

［デジタルズーム］が「オフ」のときは、3倍までの光学ズーム撮影が可能です。［デジタルズーム］が「オン」のときは、光学ズームと合わせて、被写体を最大約12倍相当まで拡大して撮影できます。

注意

［フォーカスモード］が🌷（マクロ）に設定されているときは、光学ズームは使用できません（デジタルズームは使用できます）。

メモ

- 拡大倍率が大きくなると、手ぶれしやすくなります。手ぶれを防ぐためには、三脚やセルフタイマー、リモコンを使っての撮影が有効です。
- デジタルズームを使って撮影すると、光学ズームを使って撮影したときよりも、画像が粗くなります。

[デジタルズーム]を設定する

初期状態では、[デジタルズーム]は「オン」になっています。光学ズームだけを使って撮影したいときは、「オフ」に設定します。

1 **MENUボタンを押す**

[メニュー]が表示されます。

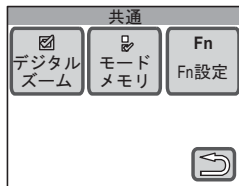
2 **[共通]をタッチする**

「共通」画面が表示されます。

3 **[デジタルズーム]をタッチする**

☑(オン)/□(オフ)が切り替わります。

4 **⮌を2回タッチする**

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

フレーム撮影する

カメラ内に保存されているフレーム（飾り枠）に合わせて構図を決め、撮影することができます。あらかじめ3種類のフレームが用意されています。

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 撮影モードアイコンをタッチする

- ［撮影ツールバー］には、現在選択中の撮影モードのアイコンが表示されます。
- ［撮影モードパレット］が表示されます。
- アイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（）をタッチして画面を切り替えます。

3 アイコンをダブルタッチする

- フレーム選択画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

4 使用するフレームをタッチする

フレーム合成画面が表示されます。

5 ［決定］をタッチする

- 設定が保存され、撮影できる状態になります。
- 矢印アイコン（）をタッチして使用するフレームを選び直すこともできます。

6 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

7 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- フレーム撮影には、内蔵メモリー/SDメモリーカードに保存されているフレームが使用されます。
- フレーム撮影時の記録サイズは3Mに固定されます。
- フレーム撮影モードに入る前の記録サイズが3M以外の場合は、他の撮影モードに変更すると、元の記録サイズに戻ります。

サイズ・画質・明るさ・色などを調整する

このカメラは、特別な設定をしなくても、自動的に明るさや色合いを調整してきれいな写真や動画を撮ることができます。しかし、思い通りの写真や動画を撮影するには、撮影条件を自分で調整することが必要なときもあります。ここでは、さまざまな撮影条件の設定について説明します。

サイズと画質

写真や動画の用途によってサイズと画質を設定します（p.53）。

明るさ

写真の明るさ（露出）は、光を取り込む量（絞り値）と取り込む時間（シャッター速度）によって決まります。カメラが設定した絞り値とシャッター速度による明るさ（露出）が意図に合わないときは、[露出補正］を使って自分で調整します（p.58）。
また、被写体のどの部分の光を測って写真の明るさ（露出）を決めるかは、[測光方式］で設定します（p.60）。
暗いところで撮影するときは、ストロボを使って被写体を明るく写すことができます（p.61）。ストロボを使わずに自然な明るさで撮りたいときはISO感度を設定します（p.75）。

色合い（ホワイトバランス）

カメラの自動調整では、適切な色合いに撮影できないときや、写真の赤みや青みを意図的に強調したいときは、[ホワイトバランス] を設定します（p.63）。

シャープネス/彩度/コントラスト

被写体の輪郭を強調したいときやソフトにしたいときは[シャープネス]を、色の鮮やかさを調整したいときは［彩度］を、明暗差を調整したいときは［コントラスト］を変更します（p.65）。

撮影条件を自動で変えて撮影する（オートブラケット）

シャッターボタンを押したときに、露出、ホワイトバランス、シャープネス、彩度、コントラストを自動的に変えた写真を３枚連続して撮影します。（p.66)

記録サイズ、画質、フレームレートを設定する

写真や動画の［記録サイズ］（横×縦の大きさ）と［画質］（データ圧縮率）、［フレームレート］（動画撮影時の1秒間の画面数）は、用途に応じて設定します。
［記録サイズ］の数値や［画質］の★の数は、多くなるほど写真をプリントしたときや動画を再生したときに鮮明な画像を撮影することができます。また、［フレームレート］は大きくなるほど動画の動きがなめらかになります。ただし、ファイルサイズが増えるので、撮影できる枚数や動画の記録時間は少なくなります。
用途に応じて適切な［記録サイズ］［画質］［フレームレート］を設定してください。

写真の場合

選べる記録サイズと適した用途

記録サイズ		鮮明、きれい ↑	用途
7M	3072×2304		フォトプリントなどの高画質印刷、A4以上の大判プリント、画像編集などの加工用など
5M	2592×1944		
4M	2304×1728		
3M	2048×1536		
2M	1600×1200		はがきサイズプリントなど
640	640× 480		ホームページ掲載、電子メール添付など

選べる画質と適した用途

画質	用途
★★★ S.ファイン	圧縮率が最も低く、A4以上の大判プリントに適しています。
★★ ファイン	圧縮率が標準で、L判の写真プリントやパソコンの画面で画像を見るときに適しています。
★ エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ掲載用に適しています。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

3 ［記録サイズ］をタッチする

「記録サイズ」画面が表示されます。

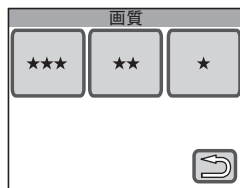
4 設定する記録サイズをタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 ⮌を2回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

［画質］を設定するには

手順3で［画質］をタッチして設定します。

メモ

- 撮影モードが♥（フレーム合成）のとき、［記録サイズ］は3Mに固定されます。
- プリントした写真の美しさ、鮮明さには、使用するプリンターの解像度なども関係してきます。

記録サイズ/画質と撮影可能枚数の目安

	★★★（S.ファイン）		★★（ファイン）		★（エコノミー）	
	内蔵メモリー	256MB	内蔵メモリー	256MB	内蔵メモリー	256MB
7M 3072×2304	5枚	69枚	11枚	134枚	16枚	200枚
5M 2592×1944	7枚	86枚	14枚	173枚	22枚	267枚
4M 2304×1728	10枚	121枚	20枚	242枚	29枚	346枚
3M 2048×1536	12枚	151枚	25枚	299枚	36枚	435枚
2M 1600×1200	20枚	242枚	33枚	401枚	49枚	586枚
640 640× 480	79枚	953枚	116枚	1386枚	156枚	1906枚

- この表の数値は、被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

動画の場合

選べる記録サイズと適した用途

640 640×480	テレビやパソコンの画面で動画を見るときに適しています。
320 320×240	電子メールへの添付やホームページ掲載用に適しています。

選べる画質と適した用途

★★★ S.ファイン	↑ 鮮明な画像になります。
★★ ファイン	
★ エコノミー	↓ 粗い画像になります。

選べるフレームレートと適した用途

30fps	動きがなめらかになります。
15fps	記録時間が長くなります。

選べるカラーモードについて

(フルカラー)	フルカラーで撮影します。
(白黒)	白黒で撮影します。
(セピア)	セピア色で撮影します。

選べるMovie SRについて

☑(オン)	手ぶれ補正を行います。
□(オフ)	手ぶれ補正を行いません。

記録サイズを設定するには

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［動画］をタッチする

「動画」画面が表示されます。

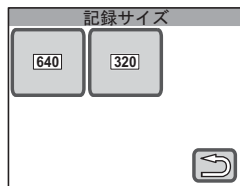
3 ［記録サイズ］をタッチする

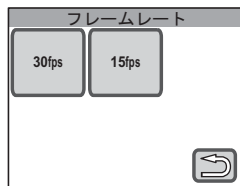
「記録サイズ」画面が表示されます。

4 設定する記録サイズをタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 ［戻る］を2回タッチする

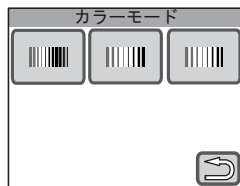
- 撮影できる状態になります。
- ［再生］ボタンを押すと再生モードになります。

［画質］/［フレームレート］を設定するには

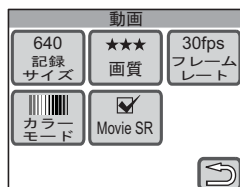
手順3で［画質］または［フレームレート］をタッチして設定します。

記録サイズ/画質/フレームレートと撮影可能時間の目安

		30fps		15fps	
		内蔵メモリー	256MB	内蔵メモリー	256MB
640 640×480	★★★	19秒	3分47秒	37秒	7分28秒
	★★	25秒	5分4秒	49秒	9分46秒
	★	38秒	7分42秒	1分15秒	14分56秒
320 320×240	★★★	30秒	6分3秒	58秒	11分33秒
	★★	41秒	8分1秒	1分19秒	15分52秒
	★	58秒	11分33秒	1分56秒	23分5秒

- この表の数値は、被写体、撮影状況、撮影モード、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。

カラーモードを設定するには

手順3で［カラーモード］をタッチして設定します。

Movie SRを設定するには

手順3で［Movie SR］をタッチして設定します。

露出を補正する

写真と動画の明るさを調整します。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影2］をタッチする

「撮影2」画面が表示されます。

3 ［露出補正］をタッチする

「露出補正」画面が表示されます。

4 ⊖または⊕アイコンをタッチして露出補正量を調整する

- 明るくする場合は⊕アイコンを、暗くする場合は⊖アイコンをタッチします。露出補正量は、–2.0 EV～+2.0 EVまでの範囲を1/3 EV単位で選択できます。
- 露出補正バーをドラッグして調整することもできます。
- ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表すグラフです（p.59）。

5 ［決定］をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 ⮌を2回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

カメラは、明るめのグレーを基準に被写体の明るさを調整します。そのため、露出補正をしない状態では、白い雪景色を撮影しても、黒いピアノを撮影しても、灰色に写ります。黒いものを黒く写したいときは、露出を⊖側に、白いものを白く写したいときは、露出を⊕側に補正します。

ヒストグラムを使う

このカメラには、画像の明るさの分布を表すグラフ（ヒストグラム）を表示する機能があります。ヒストグラムの横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を示します。
撮影前や撮影後にヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断にご利用いただけます。

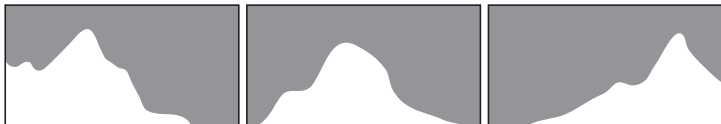
☞「撮影情報を確認する」（p.41）、「撮影情報を表示させる」（p.86）

画像の明るさを見る

明るさが適正な画像では、グラフの山は中央にあります。しかし暗い画像ではグラフの山は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

暗い画像

適正な明るさの画像

明るい画像

画像の中で、暗過ぎてヒストグラムの左端よりもさらに左に来てしまう部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明る過ぎてヒストグラムの右端よりも右に来てしまう部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
露出補正をするときは、黒つぶれや白とびが発生しないように、分布がグラフ内に収まり、左右に偏らないような露出にします。

明暗差のバランスを見る

明暗差のバランスが取れた画像では、グラフの中央部になだらかな山のピークが来ます。しかし、明暗差が激しく、中間的な明るさの部分が少ない画像では、左右に山のピークが来て、中央部分がくぼんだグラフになります。

測光方式を選ぶ

画面のどの部分の光を測って露出（明るさ）を決めるかを設定します。

測光方式

[分割測光アイコン]	分割測光	画面全体をきめ細かく測光して、カメラが適正な露出を決めます。明るい部分と暗い部分が入り組んだ複雑な被写体でも比較的適正な露出を得ることできます。
[中央部重点測光アイコン]	中央部重点測光	画面の中央部に重点を置きつつ、画面全体の明るさを均等に測って露出を決めます。画面の周辺に明るいものや暗い部分があるときでも、中央部を適正な露出で撮影できます。
[スポット測光アイコン]	スポット測光	画面の中央のみを測光して露出を決めます。画面内の特定の被写体を適正な露出で撮影したいときなどに利用します。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

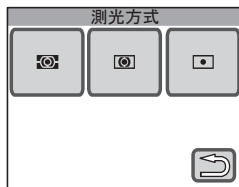
3 ［測光方式］をタッチする

「測光方式」画面が表示されます。

4 設定する測光方式をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 [戻るアイコン]を2回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- [再生アイコン]ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

- 測光は、シャッターボタンを半押ししたときに行われ、露出が決定されます。
- 画面の中央にない被写体を「スポット測光」を利用して適正露出で撮影したいときは、いったん被写体を画面中央に置き、シャッターボタンを半押しして露出を固定してからカメラを動かし、撮りたい構図を決めます。
- 撮影モードが[動画アイコン]（動画）のときは、「分割測光」に固定され、変更できません。

ストロボを使う

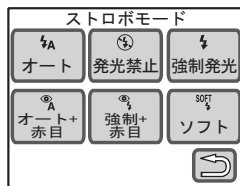
ストロボモード

	オート	暗いときや逆光のときにストロボを発光します。
	発光禁止	明るさにかかわらず、常にストロボを発光しません。
	強制発光	明るさにかかわらず、常にストロボを発光します。
	オート+赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。ストロボは暗いときや逆光のときに発光します。
	強制+赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。ストロボは常に発光します。
SOFT	ソフト	ストロボの光量を絞り、近い距離でストロボを発光しても、明るすぎないようにします。ストロボは常に発光します。

1　撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2　ストロボモードアイコンをタッチする

- ［撮影ツールバー］には、現在選択中の［ストロボモード］のアイコンが表示されます。
- 「ストロボモード」画面が表示されます。

3　設定するストロボモードをタッチする

- 設定が保存され、撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

- ストロボの光が十分に届くのは、ズームを使っていない状態で約0.15mから約6mの範囲です（工場出荷時設定。光学3倍ズームを使っているときは、約0.4mから約3mの範囲）。被写体からの距離が遠すぎるとストロボの光は届かず、近すぎると露出が正しく調整されません。ISO感度を高くする（p.75）とストロボが有効な距離が延びます。
- 暗いところでストロボを使わずに撮影するには、ISO 感度の設定を高くする方法もあります。ISO感度を高くすると、シャッター速度が速くなり、手ぶれや被写体ぶれを防ぎやすくなります。ただし、画像にノイズが増えます（p.75）。

- 撮影モードが（動画）、［ドライブモード］が（連続撮影）またはオートブラケットの（露出）、［フォーカスモード］が（無限遠）に設定されているとき、［ストロボモード］は常に（発光禁止）になります。
- ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物をストロボを使って撮影するときは、赤目にならないように、［ストロボモード］を（オート+赤目）や（強制+赤目）にしましょう。また、人物の周りを明るくしたり、ズームを使わないで近くから撮影するのも、赤目を防ぐために有効です。それでも赤目になってしまったときは、再生時に赤目補正機能を使って修正しましょう（p.124）。
- ［ストロボモード］を（オート+赤目）や（強制+赤目）にしたときは、本発光の前にプリ発光（予備発光）が行われます。

色合いを調整する（ホワイトバランス）

［ホワイトバランス］とは、白いものが白く写るように、撮影時の光の状態に応じて画像の色合いを調整する機能です。カメラの自動調整が思い通りにいかないときや、写真の赤みや青みを意図的に強調したいときに設定します。

AWB	オート	カメラが自動的に色合いを調整します。
☼	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。
⌂	日陰	日陰で撮影するときに設定します。青みを抑えます。
☀	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。赤みを抑えます。
≡	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
☐	マニュアル	撮影時の光の状態で白いものが白く写るように、手動でホワイトバランスを調整します。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

3 ［ホワイトバランス］をタッチする

「ホワイトバランス」画面が表示されます。

4 矢印アイコン（《》）をタッチして、設定するホワイトバランスを選ぶ

5 ［決定］をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 ⮌を2回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

夕焼けや朝焼けを撮影するときに⌂（日陰）に設定すると、赤みを強調した写真が撮影できます。

手動でホワイトバランスを設定する（マニュアル）

あらかじめ、白い紙などホワイトバランスの調整に用いる素材を用意しておきます。

1 「ホワイトバランス」画面で［マニュアル］を選ぶ

［調整］と調整枠が表示されます。

2 ホワイトバランスの調整に用いる素材（白い紙など）にレンズを向け、画面中央の調整枠いっぱいに素材が入るよう、カメラを構える

3 ［調整］をタッチする

ホワイトバランスが調整されます。調整が完了すると、［完了］と表示されます。

4 ［決定］をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 を2回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

（マニュアル）を選択中、［調整］をタッチせずに［決定］をタッチすると、前回調整した値が引き続き使用されます。

シャープネス/彩度/コントラストを調整する

被写体の輪郭を強調したいときやソフトにしたいときは[シャープネス]を、色の鮮やかさを調整したいときは［彩度］を、明暗差を調整したいときは［コントラスト］を変更します。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

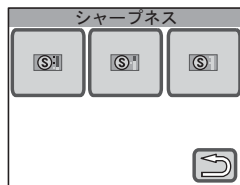
2 ［撮影2］をタッチする

「撮影2」画面が表示されます。

3 ［シャープネス］をタッチする

「シャープネス」画面が表示されます。

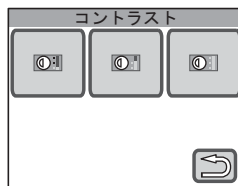
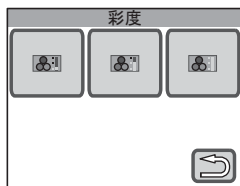
4 シャープネスの度合いをタッチして選ぶ

- （ソフト）、（標準）、（ハード）の3種類から選択できます。
- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 を2回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ボタンを押すと再生モードになります。

［彩度］または［コントラスト］を設定するには

手順3で［彩度］または［コントラスト］をタッチして設定します。

［彩度］は、（低）、（標準）、（高）の3種類から、［コントラスト］は、（低）、（標準）、（高）の3種類から選択できます。

撮影条件を自動で変えて撮影する（オートブラケット）

露出やホワイトバランスなどの撮影条件を自動的に変えた３枚の写真を連続して撮影できます。撮影した後に、写りのいい画像を選ぶことができます。
露出とホワイトバランスについては補正する幅を設定することができます。

オートブラケット設定

アイコン	機能	設定できる値
![露出]	露出	±0.3/±0.7/±1.0/±1.3/±1.7/±2.0
WB	ホワイトバランス	±1/±2/±3/±4/±5
S	シャープネス	なし
	彩度	なし
	コントラスト	なし

露出を設定するには

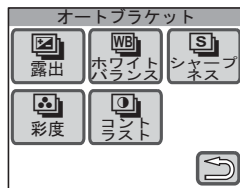
1 MENUボタンを押す

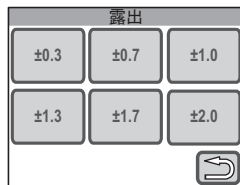
［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影2］をタッチする

「撮影２」画面が表示されます。

3 ［オートブラケット］をタッチする

「オートブラケット画面」が表示されます。

4 をタッチする

「露出」画面が表示されます。

5 露出の補正値をタッチして選ぶ

- ±0.3/±0.7/±1.0/±1.3/±1.7/±2.0から選択できます。
- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 [戻る]を２回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- [▶]ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

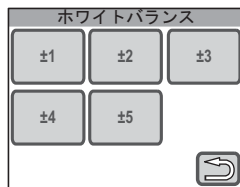
露出のオートブラケットでは、設定後に3回シャッターを切って3枚分の撮影を行います。

１枚目は適正露出で２枚目は手順５で設定した値の（－）側、３枚目は（＋）側になります。

なお、別途に露出補正（p.58）を設定している場合には、その値と手順５で設定した値の合算した値で撮影されます。例えば、露出補正を+0.7EVかけていて、オートブラケットで設定した値（手順5の設定）が±1.7EVの場合、１枚目＝+0.7EV、２枚目＝-1.0EV、３枚目＝+2.3EVとなります。

ホワイトバランスを設定するには

手順４で［ホワイトバランス］をタッチして設定します。

±1、±2、±3、±4、±5の５種類から設定できます。

メモ

- ホワイトバランスのオートブラケットは、設定後に１回シャッターを切って１枚撮影を行うと、後は設定した値だけホワイトバランスを変えた画像データを自動的にカメラの中に作成します。
  つまり、1回の撮影でホワイトバランスを変えた3枚分の撮影画像ができあがります。
- 露出とホワイトバランスのみ、値を設定できます。
- シャープネス、彩度、コントラストは現在の設定値に関係なく、標準、低、高の順番に撮影します。

その他の設定について

シャープネス、彩度、コントラストについては、手順４でそれぞれのボタンをタッチすると選択されます。

シャープネス・彩度・コントラストのオートブラケットは、設定後に1回シャッターを切って１枚撮影を行うと、後は調子を変えた画像データを自動的にカメラの中に作成します。

1回の撮影で調子を変えた3枚分の撮影画像ができあがります。

「シャープネス」を選んだ場合	「標準」、「ソフト」、「ハード」の順に3枚撮影されます。
「彩度」を選んだ場合	「標準」、「控え目」、「鮮やか」の順に3枚撮影されます。
「コントラスト」を選んだ場合	「標準」、「ローコントラスト」、「ハイコントラスト」の順に3枚撮影されます。

撮影後に３枚の中から、気に入ったものを選んでください。

撮影ツールバーからの設定について

［撮影ツールバー］で［ドライブモード］をタッチして、［オートブラケット］をタッチすると、画面右下に［設定変更］アイコンが表示されます。

このアイコンをタッチして、オートブラケットの設定内容を変更できます。設定できる機能、内容についてはここで記述されているものと同じです。

ピントを合わせる

このカメラは、何も設定しなくても、シャッターボタンを半押ししたときに、自動的にピントを合わせてくれます。しかし、思い通りの位置にピントをすばやく合わせるために、ピント合わせの方法を自分で設定することが必要なときもあります。ここでは、さまざまなピント合わせのための設定について説明します。

ピントを合わせる範囲を選ぶ

レンズの移動範囲（ピントを合わせる距離範囲）を制限します。
［フォーカスリミット］（p.74）を「オン」にすると、ピントを合わせる範囲が通常の撮影では、通常域から遠距離側の範囲に、マクロ撮影では近距離側に制限されます。

ピントを合わせる位置を選ぶ

初期状態では、画面中央のフォーカスフレーム内で一番近いものにピントを合わせます。ピントを合わせる位置を固定したいときは、［AFエリア］を設定します（p.73）。

ピントが合いにくいときは

被写体が下の例のような条件にある場合は、ピントが合わないことがあります。こんなときは、いったん撮りたいものと同じ距離にあるものにピントを固定（シャッターボタン半押し）し、その後、構図を撮りたい位置に戻してシャッターを切ります。

- 青空や白壁など極端にコントラストが低いもの
- 暗い場所、あるいは真っ暗なものなど、光の反射しにくい条件
- 細かい模様の場合
- 非常に速い速度で移動しているもの
- 遠近のものが同時に存在する場合
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい場合）

暗いところでもピントを合いやすくする

暗いところでもピントが合いやすいように、初期状態で［AF補助光］を使用する設定になっています（p.74）。

手ぶれや被写体ぶれを防ぐには

手ぶれや被写体ぶれを防ぐには、シャッター速度を早くする必要があります。そのためには、ISO感度を上げる（p.75）、ストロボを使う（p.61）などの方法があります。
Digital SRモードを使用すると、他の撮影モードに比べて高いISO感度を設定しますので、ぶれが出にくくなります。(p.48)
また、手ぶれしやすいときは、画面に ⚠✋（手ぶれ警告）が表示されます。手ぶれを防ぐには、三脚、リモコン（p.78）、セルフタイマー（p.77）の使用が有効です。

ピントが合って見える範囲（被写界深度）を変えるには

近い距離から被写体をズームで拡大して撮影すると、ピントが合って見える範囲（被写界深度）を狭くし、被写体の背景をぼかすことができます（p.49）。

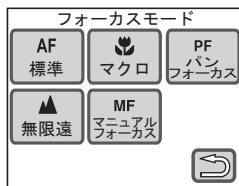
ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

AF	標準	被写体までの距離が40cm 以上のときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
🌷	マクロ	被写体までの距離が約15cm〜約50cmのときに使用します。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
PF	パンフォーカス	他の人に撮ってもらうときや、車や電車の窓越しに外の風景を撮るときなどに使用します。手前から奥までピントが合うようになります。
▲	無限遠	遠くにあるものを撮影するときに使用します。ストロボは⚡（発光禁止）、フォーカス位置は無限遠に固定となります。
MF	マニュアル フォーカス	手動でピントを合わせます。

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 フォーカスモードアイコンをタッチする

- ［撮影ツールバー］には、現在選択されている［フォーカスモード］のアイコンが表示されます。
- 「フォーカスモード」画面が表示されます。

3 設定するフォーカスモードをタッチする

- 設定が保存され、撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

注意

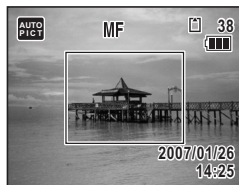
［フォーカスモード］が🌷（マクロ）に設定されているときは、光学ズームは使用できません（デジタルズームは使用できます）。

メモ

- ［フォーカスモード］が **AF**（標準）でピントが合わなかったときは、パンフォーカスになります。
- ［フォーカスモード］が🌷（マクロ）でピントが合わなかったときは、撮影できません。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

1 「フォーカスモード」画面で［マニュアルフォーカス］をタッチする

液晶モニターにMF枠が表示されます

2 MF枠内をタッチする

MF枠内が画面いっぱいに拡大して表示されます。

MFバー

3 矢印アイコン（⪡⪢）をタッチしてピントを合わせる

画面にMFバーが表示され、おおよその距離が表示されます。これを目安にピントを合わせます。

⪡：近くにピントが合う

⪢：遠くにピントが合う

4 シャッターボタンを半押しする

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

矢印アイコン（⪡⪢）から手を離して5秒以上経過するか、↩をタッチすると、撮影できる状態に戻ります。

3 撮影する

オートフォーカス条件を設定する

ピントを合わせる位置を選ぶ（AFエリア）

[ ]	マルチ	フォーカスフレーム内の一番近いものにピントを合わせます。
[ ]	スポット	画面中央にピントを合わせます。
	自動追尾AF	シャッターボタンを半押ししている間、常にピントを合わせ続けます。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

3 AFをタッチする

「AF」画面が表示されます。

4 ［AFエリア］をタッチする

「AFエリア」画面が表示されます。

5 設定するAFエリアをタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 を3回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

- 撮影モードが（動画）のときは、（自動追尾AF）は使用できません。
- 撮影モードが（スポーツ）や（ペット）、（キッズ）のとき、［AFエリア］は（自動追尾AF）に設定されますが、変更は可能です。

3 撮影する

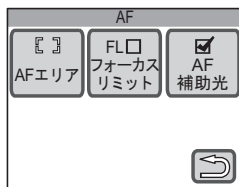
ピント合わせの範囲を制限する（フォーカスリミット）

☑	オン	無限遠から約40cmまでの範囲の被写体にピントを合わせます。
□	オフ	ズームを使用していない場合は、無限遠から約15cmまでの範囲の被写体にピントを合わせます。ズームを使用している場合は、無限遠から約40cmまでの範囲の被写体にピントを合わせます。

1 「AF」画面で［フォーカスリミット］をタッチする

FL☑（オン）/FL□（オフ）が切り替わります。

2 ⮌を3回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

撮影モードが✿（花）、🐾（ペット）、☺（キッズ）、🍴（料理）、🅰（テキスト）のとき、［フォーカスリミット］は「オフ」に設定されますが、変更は可能です。

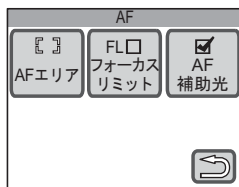
暗いときにもピントを合いやすくする（AF補助光）

☑	オン	被写体が暗く、オートフォーカスが正確に作動しないときに、被写体にAF補助光（橙色の光）が照射され、ピントが合いやすくなります。
□	オフ	暗いところでも、AF補助光が照射されません。

1 「AF」画面で［AF補助光］をタッチする

☑（オン）/□（オフ）が切り替わります。

2 ⮌を3回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

注意

本製品のAF補助光は、LEDに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1に適合しています。AF補助光を直接見ても安全上の問題はありませんが、多少まぶしく感じますので、発光部を至近距離から直接のぞきこむことはしないでください。

メモ

撮影モードが🎥（動画）のときと、［フォーカスモード］が**PF**（パンフォーカス）、▲（無限遠）、**MF**（マニュアルフォーカス）のとき、AF補助光は発光しません。

ISO感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて設定します。

AUTO	64、100、200、400、800、1600、3200 から自動選択されます。AUTO 調整範囲は、64～100、64～200、64～400、64～800、64～1600、64～3200から指定できます。（初期設定は64～400）
64	ISO感度が低い（数字が小さい）ほど、ノイズの少ない画像が得られます。暗い場所では、シャッター速度が遅くなります。ISO感度が高い（数字が大きい）ほど、暗い場所でもシャッター速度を速くできます。画像にはノイズが増えます。
100	
200	
400	
800	
1600	
3200	

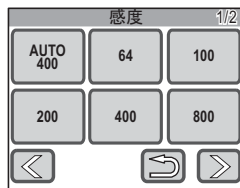
1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［撮影1］をタッチする

「撮影1」画面が表示されます。

3 ［感度］をタッチする

「感度」画面が表示されます。

AUTO調整範囲を設定する場合

4 ［AUTO XXX］(XXXは現在選択されている値）をタッチする

「感度AUTO調整範囲」画面が表示されます。

5 AUTO設定範囲を選び、タッチする

- 64 ～ 100/64 ～ 200/64 ～ 400/64 ～ 800/64～1600/64～3200の中から選択できます。
- 選択したい感度が表示されていない場合は、矢印アイコン（《》）をタッチして画面を切り替えます。

6 を2回タッチする

撮影できる状態になります。

AUTO調整範囲を設定しない場合

4 設定する感度をタッチする

- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。
- 選択したい感度が表示されていない場合は、矢印アイコン（《》）をタッチして画面を切り替えます。

5 を2回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- ▶ボタンを押すと再生モードになります。

メモ

撮影モードが（動画）のときは、［感度］は［AUTO］に固定され、変更できません。

撮影する

シャッターボタンを全押しする代わりに、セルフタイマー（p.77）やリモコン（p.78）を使ってシャッターを切ることもできます。
また、シャッターを切ったときに、連続して撮影する（p.80）こともできます。

撮影された画像は、液晶モニターに1秒間表示（クイックビュー）された後、保存されます。
［クイックビュー］の時間は、変更できます（p.81）。

セルフタイマーを使う

シャッターボタンを押してから、10秒または2秒後に撮影されます。
セルフタイマーを使って撮影するときは、カメラを三脚等に固定してください。

⏲	撮影者も含めて集合写真を撮る場合などに利用します。シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。
⏲2s	手ぶれを避けるために利用します。シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されます。

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 ドライブモードアイコンをタッチする

- ［撮影ツールバー］には、現在選択中の［ドライブモード］のアイコンが表示されます。
- 「ドライブモード」画面が表示されます。

3 ⏲（セルフタイマーモード）アイコンをタッチする

- ⏲ の部分には、現在選択中の［セルフタイマーモード］のアイコンが表示されます。
- 液晶モニターに ⏲ と ⏲2s アイコンが表示されます。
- セルフタイマーモードを変更したい場合は、⏲または⏲2sをタッチします。

4 シャッターボタンを半押しする

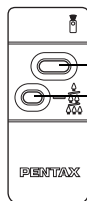
ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影までの時間が液晶モニターにカウントダウン表示され、10秒後または2秒後に撮影されます。

メモ

カウントダウン中にシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止します。全押しすると、カウントダウンをやり直します。

リモコンを使って撮影する

リモートコントロールE
（リモートコントロールFには、ズームボタンがありません。）

シャッターボタンを全押しする代わりに、リモートコントロールEまたはF（別売）を使って撮影できます。

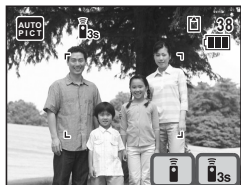
1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 ドライブモードアイコンをタッチする

- ［撮影ツールバー］には、現在選択中の［ドライブモード］のアイコンが表示されます。
- 「ドライブモード」画面が表示されます。

3 （リモコン）アイコンをタッチする

- の部分には、現在選択中のリモコンモードが表示されます。
- 液晶モニターに と アイコンが表示されます。
- リモコンモードを変更したい場合は、 または をタッチします。
- リモコンモードでは、セルフタイマーランプが点滅します。

4 リモコンのシャッターボタンを押す

：セルフタイマーランプが速く点滅し、約3秒後に撮影されます。

：すぐに撮影されます。

メモ

動画撮影モードで撮影を中止するには、リモコンまたはカメラのシャッターボタンを押します。

リモコンを使ってズーム倍率を変更する

リモートコントロールE（別売）では、シャッターボタンによる撮影のほか、ズームボタンを使ってズーム倍率を変えることもできます。

1 リモコンモードでリモコンのズームボタンを押す

押すたびにズーム位置が切り替わります。

注意

- [フォーカスモード]が🌷（マクロ）のときは、ズームボタンを押してもズーム位置は変わりません。
- リモコンを使ってズーム倍率を変更できるのは、光学ズーム域のみです。デジタルズーム域は使えません。

メモ

- 本体のボタンは、通常と同じように操作できます。
- リモコンの届く距離は、カメラ正面から約4mです。
- 新品のリモコン用電池を使うと、リモコンからカメラへ信号を約30,000回送信することができます。

連続して撮影する

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。
SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになるまで、連続撮影できます。

1 撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2 ドライブモードアイコンをタッチする

- ［撮影ツールバー］には、現在選択中の［ドライブモード］のアイコンが表示されます。
- 「ドライブモード」画面が表示されます。

3 アイコンをタッチする

設定が保存され、撮影できる状態になります。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、液晶モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押しつづけている間、連続して写真が撮影されます。

注意

連続撮影では、ストロボは発光しません。

メモ

- 連続撮影の間隔は、記録サイズや画質の設定によって異なります。
- ピント、露出は、1枚目で固定されます。

撮影直後の画像表示の時間を設定する（クイックビュー）

クイックビュー（撮影直後の画像表示）の時間を［オフ］（表示しない）［1秒］［2秒］［3秒］［4秒］［5秒］から選択します。

1　MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2　［撮影2］をタッチする

「撮影2」画面が表示されます。

3　［クイックビュー］をタッチする

「クイックビュー」画面が表示されます。

4　設定する表示時間をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5　[戻る]を2回タッチする

- 撮影できる状態になります。
- [▶]ボタンを押すと再生モードになります。

メモパッドを使う

白い紙にメモするように、白い背景にメモを書いたり、線を描きこんだりできます。

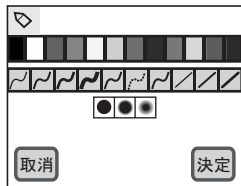
1　撮影モードで液晶モニターをタッチする

［撮影ツールバー］が表示されます。

2　［メモパッド］をタッチする

メモパッド画面が表示されます。

3　アイコンをタッチする

線選択画面が表示されます。

4　線の色、種類、にじみをそれぞれタッチして選ぶ

- 線の色は12種類。（黒、白、赤、橙、黄、緑、紫、青、ピンク、水色、深緑、茶）
- 線の種類は10種類。（自由曲線［細/標準/太/極太］、自由点線曲線［細/標準/太］、直線［細/標準/太］）
- 線のにじみは３種類。（なし、中、大）
- 線の初期値は色：黒、種類：自在曲線、にじみ：なし。

5　［決定］をタッチする

メモパッド画面に戻ります。

6　スタイラスペンでメモしたり、線を引いたりする

内容を変更、消去したいときは、◆（消しゴム）を使います。消しゴムの使いかたはp.116を参照してください。

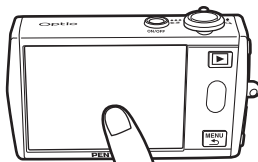
7　［決定］をタッチする

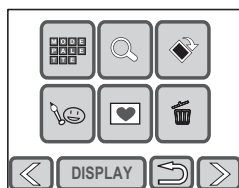
撮影モードに戻ります。

メモ

メモの記録サイズは640です。

再生のための機能を設定する

▶ボタンを押して撮影モードから再生モードに切り替えます。再生モードでは、［再生ツールバー］を使って再生のための機能を設定します。

液晶モニターをタッチ

［再生ツールバー］

選択するアイコンをタッチ

［再生モードパレット］

選択するアイコンをタッチ

画面に従い、操作を続けます。

- ［再生モードパレット］でガイドチェックボックスがチェックされた状態でアイコンをタッチすると、ガイド画面が表示されます。ガイド画面の表示を省略したいときは、ダブルタッチします。
- 一定時間以上、何も操作をしないと、再生画面に戻ります。
- シャッターボタンを押すと（全押しまたは半押し）、撮影画面に切り替わります。
- ↩ をタッチすると、前の画面に戻ります。

[再生ツールバー] で設定する機能

項目		内容	初期状態	参照
MODE PALETTE	再生モードパレット	再生モードパレットを表示します。	—	—
🔍	画像拡大	撮影した写真を拡大表示します。	—	p.89
	画像回転	撮影した写真を回転表示します。	—	p.88
🗑	画像消去	不要な画像を消去します。	—	p.99
	お絵かきモード	写真に絵を描いたり、スタンプを押したり、切り取ってスタンプにしたり、一部を消したりします。	—	p.108
	フレーム合成	写真に飾り枠を合成します。	—	p.116
DISPLAY	情報表示	液晶モニターにどんな情報を表示するかを設定します。	標準	p.86

[再生モードパレット] でできること

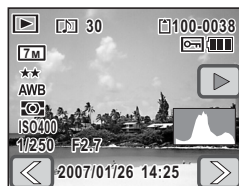
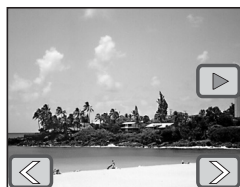
項目		内容	初期状態	参照
	スライドショウ	撮影した写真や動画を連続して再生します。	3秒、ワイプ、1	p.95
	リサイズ	写真の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを小さくします。	—	p.105
	トリミング	写真の不要な部分を削除して、別の写真として保存します。	—	p.106
	画像/音声コピー	内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像や音声をコピーします。	—	p.130

項目			内容	初期状態	参照
	デジタルエフェクト	カラーフィルタ	写真を白黒やセピア、赤、青、緑などのカラーフィルタを使って加工します。	白黒	p.120
		デジタルフィルタ	写真をソフトな感じにしたり、イラスト風にしたり、人物の横幅を変えたりします。	ソフト	p.123
		フィッシュアイフィルタ	魚眼レンズを使って撮影したような加工を行います。	中	p.121
		明るさフィルタ	写真の明るさを変更します。	0	p.122
		フレーム合成	写真に飾り枠を合成します。	—	p.116
		お絵かきモード	写真に絵を描いたり、スタンプを押したり、切り取ってスタンプにしたり、一部を消したりします。	—	p.108
	動画編集	静止画保存	動画の1コマを静止画として保存します。	—	p.127
		動画分割	場所を指定して、動画を2つに分割します。	—	p.128
		動画結合	2つの動画を結合して1つにします。	—	p.129
	赤目補正		ストロボ撮影で人物の目が赤く写った写真を補正します。	—	p.124
	ボイスメモ		撮影した写真に音声(ボイスメモ)を付けます。	—	p.125
	プロテクト		画像や音声を誤って消去しないようにプロテクト(保護)します。	—	p.102
	DPOF		撮影した写真のプリントを予約します。	—	p.132
	削除画像復活		誤って削除した画像を復元します。	—	p.103
	起動画面設定		気に入った写真を起動時に表示します。	—	p.126

撮影情報を表示させる

再生時の液晶モニターの表示内容は、以下の3通りから選択できます。表示内容の詳細は、表紙裏の「画面の表示」をご覧ください。

[標準]

[標準+ヒストグラム]

[情報表示なし]

メモ

- ヒストグラムの形状で、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認できます（p.59）。
- ヒストグラム表示の際には、白とびや黒つぶれ警告を行います。
- 動画ファイルの場合、ヒストグラムは表示されません。

1 再生モードで液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

2 ［DISPLAY］をタッチする

表示内容の選択画面が表示されます。

3 表示内容をタッチする

設定が保存され、再生できる状態になります。

再生する

再生専用モードで起動する

再生専用モードは、撮影はせずに、すぐに画像や音声を再生したいときに使用します。

1 電源オフの状態で▶ボタンを押しながら電源スイッチを押す

再生専用モードで起動します。レンズは収納されたまま、繰り出されません。

メモ

- 撮影モードで▶ボタンを1 秒以上押すと、再生専用モードに切り替わり、レンズが収納されます。
- ▶ボタンを押して1秒以内に離したときは、レンズが出たままの通常の再生モードになります。再生モードに移行後、10秒経過するか、再生モードパレットの項目選択を行うと、レンズは保護のため収納されます。
- 再生専用モードで▶ボタンを押すと撮影モードに切り替わり、レンズが繰り出されます。
- SDメモリーカードを参照しているとき、撮影モードで再生ボタンを1秒以上押すと、再生専用モードに切り替わり、レンズが収納されます。そのまま手を離さずに1秒間再生ボタンを押し続けると、内蔵メモリを参照します。

回転表示する

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして回転させる写真を選ぶ

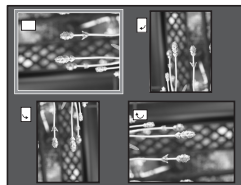
2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 アイコンをタッチする

回転方向を選択する画面が表示されます。

4 回転する方向をタッチする

回転した状態で写真が表示されます。

注意

- 動画は回転表示できません。
- プロテクトされた写真（p.102）やSDメモリーカードをライトプロテクトしているとき（p.19）は、回転表示できません。

拡大表示する

写真を再生する際、最大8倍まで拡大表示できます。拡大表示中は、ドラッグして表示位置を変更できます。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして拡大表示する写真を選ぶ

2 ズームレバーを🔍側に回す

写真が拡大表示されます（1倍～8倍）。

- 液晶モニターの ⊕ アイコンをタッチして拡大することもできます。
- ズームレバーを 🔍 側に回し続けるか、⊕ アイコンを押し続けると、連続的に大きさが変わります。
- 写真のどの部分を拡大しているかを画面左上のガイド表示で確認できます。

拡大表示中にできる操作

＜拡大位置の移動＞

- 画面左上のガイド表示で、表示範囲をドラッグして移動
- 表示画面で表示したい部分へ向けてドラッグ

＜拡大率の変更＞

- ズームレバー（🔍）/⊕アイコン：写真を拡大する（最大8倍まで）
- ズームレバー（▦）/⊖アイコン：写真を縮小する（最小1倍まで）
- 表示画面で表示したい範囲をドラッグ（1倍表示時のみ）：ドラッグした範囲を拡大表示
- 1倍表示時に⊕アイコンをダブルタッチすると、最大倍率に拡大されます。
- 最大倍率時に⊖アイコンをダブルタッチすると、1倍表示に縮小されます。

3 MENUボタンを押す

1画面表示に戻ります。

注意

- 動画は拡大表示できません。
- 液晶モニターの表示モードが［情報表示なし］になっている場合は、拡大部分を確認するためのガイドは表示されません（p.86）。ただし、⊖⊕アイコンは表示されます。

9画面表示をする

撮影した画像や音声を液晶モニターに同時に9ファイルずつ表示します。

1 再生モードでズームレバーを ▦ 側に回す

- 9画面表示になります。
  ファイルの上に表示される記号の意味は下記の通りです。
  無印　　　　：音声なしの写真
  🎙（画像あり）：音声付きの写真
  🎥　　　　　：動画（1コマ目の画面が表示されます）
  🎙（画像なし）：音声のみのファイル
- 矢印アイコン（≪≫）をタッチすると9画面単位でページが切り替わります。
- 🗑（選択消去）アイコンをタッチすると、選択消去画面に切り替わります（p.101）。

2 ファイルをタッチする

タッチしたファイルの1画面表示に切り替わります。

フォルダ表示/カレンダー表示に切り替える

9画面表示でズームレバーを ▦ 側に回すと、フォルダ表示またはカレンダー表示に切り替わります。フォルダ表示とカレンダー表示は、画面下部中央のボタンで切り替えることができます。

1 再生モードで、ズームレバーを ▦ 側に回す

画面が9画面表示に切り替わります。

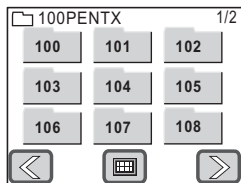
2 ズームレバーを ▦ 側に回す

画面がフォルダ表示またはカレンダー表示に切り替わります。

フォルダ表示

画像や音声が記録されているフォルダが一覧表示されます。

フォルダをタッチするとフォルダ内の画像が9画面表示されます。

フォルダが10個以上ある場合は、矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして表示するフォルダを切り替えることができます。

画面下部の▦をタッチすると、カレンダー表示に切り替わります。

カレンダー表示

撮影した画像や録音した音声が、日付ごとにカレンダー形式で表示されます。

カレンダーの日付には、各日付で撮影された最初の画像が表示されます。

その日付で最初に記録されているのが音声だけのデータならば、🎙が表示されます。

日付をタッチすると、その日付で最初に撮影した画像が1画面表示されます。

ズームレバーを🔍側に回すと、選択されている日付に撮影した画像が9画面表示されます。

矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして前後の月に表示を切り替えることができます。

画面下部の▭をタッチすると、フォルダ表示に切り替わります。

メモ

フォルダ表示/カレンダー表示でMENUボタンを押すと、通常の9画面表示に切り替わります。

ボイスメモが付いた写真を再生する

1 再生モードで矢印アイコン（⪡⪢）をタッチしてボイスメモが付いた写真（p.125）を選ぶ

ボイスメモが付いている写真には、♪アイコンが表示されます。

2 ▶アイコンをタッチする

ボイスメモが再生されます。

再生中にできる操作

ズームレバー（♠）　　　　：音量を大きくする
ズームレバー（♠♠♠）　　　：音量を小さくする
□アイコン、**MENU**ボタン：再生を途中で停止します。

動画を再生する

（動画）モードで撮影した動画を再生します。動画再生時には、音声も同時に再生されます。

1 再生モードで矢印アイコン（）をタッチして再生する動画を選ぶ

2 アイコンをタッチする

動画が再生されます。

再生中にできる操作

	：一時停止
、**MENU**ボタン	：再生を途中で停止する
	：逆方向に再生
	：逆方向再生中に順方向再生に戻る
ズームレバー（）	：音量を大きくする
ズームレバー（）	：音量を小さくする

一時停止中にできる操作

	：一時停止を解除（再生）
	：再生を停止する
	：コマ戻しする
	：コマ送りする

3 アイコンをタッチする

再生が停止します。

音声を再生する

🎙（ボイスレコーディング）モードで録音した音声を再生します。

1　再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして再生する音声を選ぶ

ファイルの総録音時間

2　▶アイコンをタッチする

音声が再生されます。

再生済み時間

再生中にできる操作

⏸	：一時停止
◻、MENUボタン	：再生を停止する
ズームレバー（🔍）	：音量を大きくする
ズームレバー（▦）	：音量を小さくする

＜インデックスがない場合＞

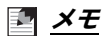
⏪	：早戻しする
⏩	：早送りする

＜インデックスがある場合＞

⏪	：前のインデックス位置から再生
⏩	：次のインデックス位置から再生

一時停止中にできる操作

▶	：一時停止を解除（再生）
◻	：再生を停止する
⏮	：約5秒前に戻る
⏭	：約5秒先に送る

メモ

インデックスがある音声の場合は、インデックス位置まで早戻し、早送りされます。

スライドショウで連続再生する

撮影した写真や動画を連続して再生します。

1 **再生モードで矢印アイコン（⊲⊳）をタッチしてスライドショウを開始する画像を選ぶ**

2 **液晶モニターをタッチする**

［再生ツールバー］が表示されます。

3 **MODE PALETTEアイコンをタッチする**

［再生モードパレット］が表示されます。

4 **▶アイコンをダブルタッチする**

- 「スライドショウ」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

スライドショウ

3秒 表示間隔	画面効果	1 効果音

スタート

5 **［スタート］をタッチする**

スライドショウがスタートします。

スライドショウの途中で液晶モニターをタッチすると、一時停止します。一時停止中に［スタート］をタッチすると再開します。

6 **シャッターボタン、▶ボタン、MENUボタンを押すか、ズームレバーを動かす**

スライドショウが終了します。

メモ

- スライドショウは、終了するまで繰り返します。
- 動画やボイスメモ付きの写真は、「表示間隔」の設定時間にかかわらず、すべて再生されてから次の画像に移ります。
- 🎙（ボイスレコーディング）モードで録音した音声は、スライドショウでは再生されません。

［表示間隔］を設定する

「スライドショウ」画面で［表示間隔］をタッチして設定します。［表示間隔］は［3秒］［5秒］［10秒］［20秒］［30秒］から選べます。
設定したい秒数のアイコンをタッチすると、設定が保存され、「スライドショウ」画面に戻ります。

［画面効果］を設定する

「スライドショウ」画面で［画面効果］をタッチして設定します。「画面効果」は、以下から選択できます。

	ワイプ	左から右へ画面が流れる効果
	チェッカー	格子状に徐々に次の画像が表示される効果
	フェード	現在の画面が徐々に消え、そこに次の画像が浮かび上がってくる効果
?	ランダム	ワイプ、チェッカー、フェードがランダムに選択されます。
オフ	オフ	切り替え効果なし

設定したい画面効果のアイコンをタッチすると、設定が保存され、「スライドショウ」画面に戻ります。

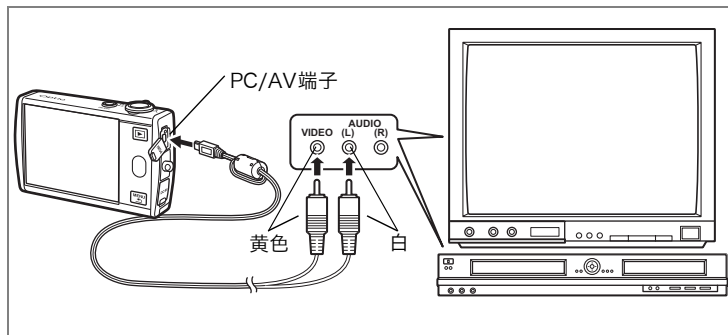
［効果音］を設定する

「スライドショウ」画面で［効果音］をタッチして設定します。
「画面効果」が「オフ」以外のときに、画面が切り替わるときに流れる効果音を［1］［2］［3］［USER］［オフ］から選択できます。

メモ

画面効果がオフのとき、効果音はオフに固定されます。

テレビで再生する

AVケーブルを使用すると、テレビなど、ビデオ入力端子を備えたAV機器を液晶モニターの代わりに使って再生ができます。ケーブルを接続するときは、テレビとカメラの電源を必ずオフにしてください。

1 カメラのPC/AV端子にAVケーブルを接続する

2 AVケーブルのもう一方の端子（映像：黄色、音声：白）を、AV機器の映像入力端子と音声入力端子に接続する

ステレオ音声の出力に対応する機器に接続するときは、音声端子をL（白）に差し込んでください。

複数の映像入力端子があるAV機器（テレビなど）で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続している映像入力端子を選択してください。

3 AV機器の電源をオンにする

カメラを接続した機器と、画像を映し出す機器が別の場合は、両方の電源をオンにします。

4 カメラの電源をオンにする

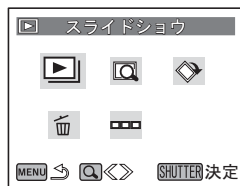
- ビデオ出力専用モードで起動します。
- AV機器に接続している間は、カメラの液晶モニターはオフになります。

5 テレビ画面に表示されるガイドに従って操作する

- ズームレバー、シャッターボタン、▶ボタン、**MENU** ボタンを使って操作します。

ズームレバー　　：アイコンの選択、ページ送りなどに使います。
シャッターボタン：選択の確定、表示内容の切り替えなどに使います。
▶ボタン　　　　：動画や音声の再生などに使います。
MENUボタン　：ビデオ出力専用メニューを表示する、前の画面に戻るときなどに使います。

- **MENU**ボタンを押すと、ビデオ出力専用メニューが表示されます。

▶：スライドショウをします。
🔍：写真を拡大します。
◇：写真を回転します。
🗑：画像や音声を消去します。
□□□：ファイル一覧から表示する画像や音声を選択します。

6 カメラの電源をオフにする

7 カメラとAV機器からAVケーブルを取り外す

メモ

- 長時間使用するときは、ACアダプターキット「K-AC63J」（別売）の使用をおすすめします。
- 国や地域によってはビデオ出力方式が初期状態（[NTSC]）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を[PAL]に切り替えてください（p.154）。
- AV機器に接続している間は、カメラの液晶モニターはオフになります。
- AV機器に接続している間は、カメラのズームレバーを使っての音量調整はできません。
- 別売のリモコン（p.78）を使うと次のような操作が可能です。

リモートコントロール E：シャッターボタンで次の画像を表示、ズームボタンで前の画像を表示します。
リモートコントロール F：シャッターボタンで次の画像を表示します。

消去する

一つずつ消去する

画像や音声を一つ一つ確認しながら消去します。

注意

- プロテクトされている画像や音声は消去できません（p.102）。
- SDメモリーカードがロックされている場合（ライトプロテクトスイッチがLOCKになっている場合）は、画像や音声は消去できません。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして消去する画像または音声を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

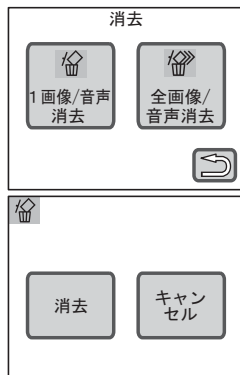
3 🗑アイコンをタッチする

「消去」画面が表示されます。

4 ［1画像/音声消去］をタッチする

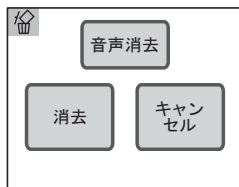
消去を確認する画面が表示されます。

5 ［消去］をタッチする

選択した画像や音声が消去されます。

メモ

撮影直後に画像が表示されている間に🗑アイコンをタッチすると、撮影したばかりの画像を消去できます。

ボイスメモを消去する

ボイスメモ付きの写真（p.125）の場合は、手順5で［音声消去］をタッチするとボイスメモだけを消去できます。
写真とボイスメモの両方を消去するには、手順5で［消去］をタッチします。

まとめて消去する

カメラに保存されているすべての画像や音声をまとめて消去します。

注意

プロテクトされている画像や音声は消去できません（p.102）。

1 再生モードで液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

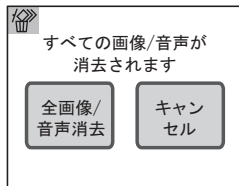
2 🗑アイコンをタッチする

「消去」画面が表示されます。

3 ［全画像/音声消去］をタッチする

消去を確認する画面が表示されます。

4 ［全画像/音声消去］をタッチする

すべての画像と音声が消去されます。

選択して消去する

9画面表示で確かめながら、消去する画像や音声ファイルを選び、一括して消去します。

注意

プロテクトされているファイルは消去できません（p.102）。

1 再生モードでズームレバーを 側に回す

9画面表示に切り替わります。

2 アイコンをタッチする

ファイルの上に□（チェックボックス）が表示されます。

3 消去するファイルをタッチする

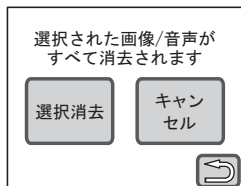
- ファイルが選択され、□が☑に変わります。
- ズームレバーを側に回すと、ファイルが1画面表示されます（2秒経つか、ズームレバーを側に回すと9画面表示に戻ります）。

  1画面表示でも、チェックボックスをタッチして☑（オン）/□（オフ）をひとつひとつ切り替えることができます。

4 ［消去］をタッチする

消去を確認する画面が表示されます。

5 ［選択消去］をタッチする

選択したファイルが消去されます。

4 再生と加工

消去できないようにする（プロテクト）

画像や音声を誤って消去しないように、プロテクトすることができます。

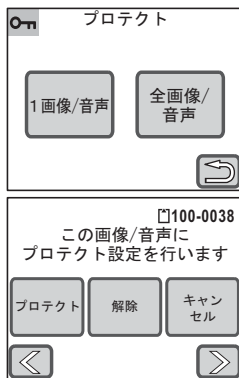
1 再生モードで液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

2 アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 アイコンをダブルタッチする

- 「プロテクト」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

4 「1画像/音声」をタッチする

プロテクトする画像または音声を選択する画面が表示されます。

5 矢印アイコン（≪≫）をタッチしてプロテクトする画像または音声を選ぶ

6 ［プロテクト］をタッチする

選択した画像または音声がプロテクトされます。

注意

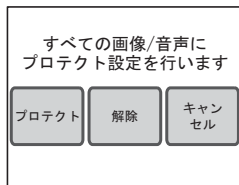
SDメモリーカードまたは内蔵メモリーをフォーマットすると、プロテクトされている画像や音声も消去されます。

メモ

- プロテクトを解除するには、手順6で［解除］をタッチします。
- プロテクトされている画像や音声には、再生時にファイル番号の下に が表示されます。

すべての画像と音声をプロテクトするには

1 「プロテクト」画面で［全画像/音声］をタッチする

プロテクトを確認する画面が表示されます。

2 ［プロテクト］をタッチする

すべての画像と音声がプロテクトされます。

メモ

手順2で［解除］を選択すると、すべての画像と音声のプロテクトが解除されます。

消去した画像を元に戻す

誤って削除した画像を復元することができます。
復元可能な画像を元のファイル名で復活させます。

注意

- 削除した画像をすべて復元できるわけではありません。カメラの使用状況により復元できる画像の数は変わります。
- 誤って削除したすぐ後に操作すると、復元できる可能性が高くなります。削除した後に何枚も新たに撮影をした場合、復元できる可能性は低くなります。復元したい場合は削除後すぐの操作をお勧めします。

1 再生モードで液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

2 MODE PALETTE アイコンをタッチする

［再生モードパレット］が表示されます。

3 アイコンをダブルタッチする

- 「削除画像復活」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

4 再生と加工

4 「XXX 枚復活させますか？」と画面に表示されたら［復活］をタッチする

- 復元処理を行います。処理が終了すると再生モードに戻ります。
- 復元できる画像がない場合は、「処理できる画像がありません」と表示されますので、［了解］をタッチします。

メモ

- 最大999枚の画像を復元できます。
- 復元された画像のファイルフォーマットは元の画像と同じです。

加工する

写真のサイズと画質を変更する（リサイズ）

写真の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを小さくできます。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになって撮影できなくなったときは、写真をリサイズして上書き保存すれば、空き容量が増え、続けて撮影できます。

1 再生モードで矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして、リサイズする写真を選ぶ

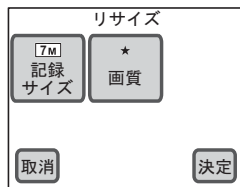
2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして画面を切り替えます。

4 リサイズアイコンをダブルタッチする

- 「リサイズ」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。
- 初期状態では、［記録サイズ］は同じで［画質］を1段階下げた設定が表示されます。設定を変更したいときは、［記録サイズ］または［画質］をタッチして設定します。

5 ［決定］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

6 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- リサイズされた写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

注意

- 動画や音声ファイルはリサイズできません。
- 元の写真よりも大きいサイズ、きれいな画質には変更できません。
- ボイスメモの付いた写真をリサイズして新規保存した場合は、ボイスメモも一緒に新規保存されます。

写真から不要な部分を削除する（トリミング）

写真から不要な部分を削除して、別の写真として保存できます。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、トリミングする写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 「トリミング」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 トリミング枠の大きさと範囲を設定する

- 初期状態では、最大の枠サイズとなっています。
- トリミング枠の大きさは、ズームレバーを使うか、（サイズ変更）アイコンをタッチして変更します。
- トリミング枠は、ドラッグして移動できます。
- トリミング枠が回転できる大きさになると回転アイコンが表示されます。タッチすると、トリミング範囲が回転します

6 ［決定］をタッチする

トリミングされた写真が新しいファイル名で保存されます。

注意

動画や音声ファイルはトリミングできません。

メモ

- トリミング後の写真は、元の写真と同じ［画質］で保存されます。
- ボイスメモの付いた写真をトリミングして新規保存した場合は、ボイスメモも一緒に新規保存されます。

写真に絵を描く/スタンプを押す

撮影した写真に絵を描いたり、スタンプを押したりできます。撮影した写真からマイスタンプを作ることでもできます。

1 再生モードで矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして、加工する写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

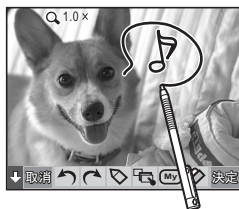
- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 ［お絵かきモード］をタッチする

お絵かき画面が表示されます。

6 画面下にあるお絵かきツールを使って絵を描いたり、スタンプを押したりする

- お絵かきツールのアイコンをタッチして各機能を選択します。

  ⇧ ：ツールバーを表示します。
  ⇩ ：ツールバーを閉じます。
  ↶ ：直前の操作を取り消します。
  ↷ ：取り消した操作を復活します。
  ◇ ：線の色、種類、にじみを選択します。
  ⧉ ：スタンプを選択します。
  My ：マイスタンプを選択します。
  ◆ ：描いた絵やスタンプを消します。
- ズームレバーで画面を拡大/縮小することができます。

7 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

9 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

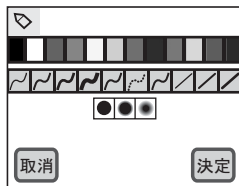
- 加工された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

注意

- 動画や2M以下のサイズの写真には、お絵かきができません。
- 4M以上のサイズの写真は、お絵かきをすると3Mにリサイズされます。

線を引く/絵を描く

1 お絵かき画面で◇アイコンをタッチする

線選択画面が表示されます。

2 線の色、種類、にじみをそれぞれタッチして選ぶ

- 線の色は12種類。(黒、白、赤、橙、黄、緑、紫、青、ピンク、水色、深緑、茶)
- 線の種類は10種類。(自由曲線［細/標準/太/極太］、自由点線曲線［細/標準/太］、直線［細/標準/太］)
- 線のにじみは３種類。(なし、中、大)
- 線の初期値は色：黒、種類：自在曲線、にじみ：なし。

3 ［決定］をタッチする

お絵かき画面に戻ります。

4 スタイラスペンで線を引いたり、絵を描いたりする

5 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

6 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

7 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- 加工した写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

用意されたスタンプを使う

1 お絵かき画面で アイコンをタッチする

スタンプ選択画面が表示されます。

2 矢印アイコン（≪ ≫）をタッチして、使いたいスタンプを選ぶ

アイコンをタッチして機能を選択できます。

- 🗑 ：選択しているスタンプが削除できる場合のみ表示されます。タッチすると選択しているスタンプを削除します。
- ⧉ ：スタンプの大きさを拡大・縮小します。大きさは3段階（小/中/大）で、タッチすると中→大→小→中･･･の順番に大きさが変わります。初期値は中です。
- ⟲ ：選択したスタンプを回転します。（p.113)

3 ［決定］をタッチする

お絵かき画面に戻ります。

4 スタンプを押したい場所をタッチする

- 指定した場所にスタンプが押されます。
- パネルをタッチしている間は、スタンプの位置をドラッグで変更できます。離すとスタンプの位置が確定されます。
- 画面右上に表示されている［単押し / 連続押し切り替え］アイコンをタッチして、表示を（連続押しモード）に切り替えると、画面をなぞると軌跡に連続してスタンプが押されます。

5 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

6 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

7 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- 加工した写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

マイスタンプを使う

1 お絵かき画面で My アイコンをタッチする

マイスタンプ選択画面が表示されます。

2 使いたいスタンプをタッチする

矢印アイコン（⪡⪢）が表示されている場合、タッチして表示を切り替えることができます。

アイコンをタッチして機能を選択できます。

[新規]：新しくスタンプを作成する場合にタッチします。(p.114)
🗑　　：選択しているスタンプが削除できる場合のみ表示されます。タッチすると選択しているスタンプを削除します。
□　　：スタンプの大きさを拡大・縮小します。大きさは3段階（小/中/大）で、タッチすると中→大→小→中･･･の順番に大きさが変わります。初期値は中です。
⟳　　：選択したスタンプを回転します。(p.113)

3 [決定] をタッチする

お絵かき画面に戻ります。

4 スタンプを押したい場所をタッチする

- 指定した場所にスタンプが押されます。
- パネルをタッチしている間は、スタンプの位置をドラッグで変更できます。離すとスタンプの位置が確定されます。
- 画面右上に表示されている［単押し / 連続押し切り替え］アイコンをタッチして、表示を（連続押しモード）に切り替えると、画面をなぞると軌跡に連続してスタンプが押されます。

5 [決定] をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

6 [終了] をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

7 [上書き保存] または [新規保存] をタッチする

- 加工した写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

スタンプ・マイスタンプを回転表示する

スタンプ、マイスタンプともに15度単位で回転させた状態で使うことができます。
ここではスタンプで説明します。マイスタンプでの操作も同じです。

1 お絵かき画面で アイコンをタッチする

スタンプ選択画面が表示されます。

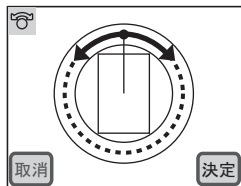
2 矢印アイコン（ ）をタッチして、使いたいスタンプをタッチする

3 アイコンをタッチする

スタンプの周りに灰色の輪が表示されます。

4 灰色の輪にタッチする

スタンプの周囲が長方形で囲まれ、スタンプの中心から灰色の輪に向けて直線が表示されます。

5 輪の上の●を円周に沿って回転させたい方向にドラッグする

6 位置が決まったら、［決定］をタッチする

- スタンプ選択画面に戻ります。
- 回転結果を修正する場合、手順３～5を繰り返します。

7 ［決定］をタッチする

お絵かき画面に戻ります。

8 スタンプを押したい場所をタッチする

指定した場所にスタンプが押されます。

9 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

10 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

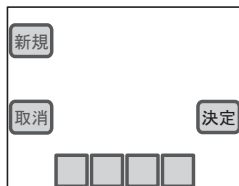
11 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- 加工した写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

マイスタンプを作る

撮影した画像から、マイスタンプを作成して使うことができます。

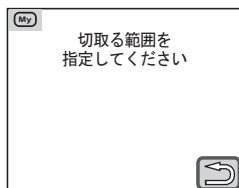
1 お絵かき画面で My アイコンをタッチする

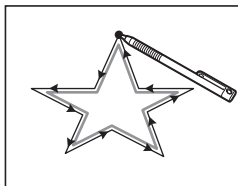
マイスタンプ選択画面が表示されます。

2 ［新規］をタッチする

- 作成方法選択画面が表示されます。
- 切り取り方法を選択します。

自由切取りで切り取る場合

3 ［自由切取り］をタッチする

画像切取り画面が表示されます。

4 ドラッグして切り取る範囲を選択する

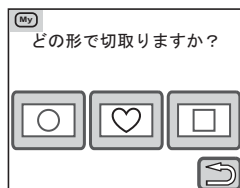
- 切り取る範囲は一筆書きで選択します。線で囲まれた部分ができ、スタイラスペンを画面から離すと切り取り範囲が確定します。
- ズームレバーで画像を拡大した状態で切り取ることができます。ただし、切り取り範囲が確定した後では拡大/縮小できません。
- 手順５に進むまで何回でも切り取る範囲を追加できます。
- 切り取る範囲を変更する場合は［取消］をタッチして選択し直してください。

5 ［決定］をタッチする

確認画面が表示されます。

6 ［保存］をタッチする

マイスタンプが登録されてマイスタンプ選択画面に戻ります。

定型切取りで切り取る場合

3 ［定型切取り］をタッチする

定型選択画面が表示されます。

4 切り取る型を選び、タッチする

定型画像切取り画面が表示されます。

- 切り取る位置はドラッグして調整ができます。
- 画面右上にある拡大 / 縮小ボタンで切り取る大きさを３段階で変更できます。（大/中/小）初期値は中。
- ［切取り枠追加］をタッチすると、それまでの切り取り枠を確定して、同じ型で追加切り取りができます。ただし、拡大した画面には追加できません。

5 **［決定］をタッチする**

確認画面が表示されます。

6 **［保存］をタッチする**

マイスタンプが登録されてマイスタンプ選択画面に戻ります。

消しゴムを使う

◈アイコンをタッチすると、消しゴム選択画面が表示されます。
使用する消しゴムの種類をタッチして選択し、［決定］をタッチします。

メモ

- ［CLS］は全消去です。お絵かきモードでの変更がすべてクリアされます（登録したスタンプは消えません）。
- 以前に登録済みのお絵かきモードでの変更は消えません。

写真にフレームを付ける（フレーム合成）

撮影した写真にフレーム（飾り枠）を付けることができます。このカメラには3種類のフレームが用意されています。

1 **再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、フレームを付ける写真を選ぶ**

2 **液晶モニターをタッチする**

［再生ツールバー］が表示されます。

3 **MODE PALETTE アイコンをタッチする**

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 ［フレーム合成］をタッチする

フレームの選択画面が表示されます。

6 合成するフレームをタッチする

- 選択されたフレームが合成された画面が表示されます。
- フレームを新規作成することもできます。(p.118)

7 画面を調整する

- 画面をドラッグして画像の表示位置を変えることができます。
- ズームレバーでフレーム内の画像の拡大/縮小ができます。
- 矢印アイコン（≪≫）をタッチして、合成する別のフレームを選ぶこともできます。

8 ［決定］をタッチする

- 「デジタルエフェクト」画面に戻ります。
- フレーム合成された写真は、[終了]をタッチするまで保存されません。

注意

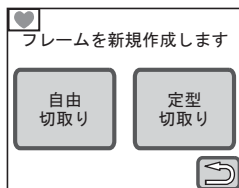
- 動画や2M以下のサイズの写真には、フレームを付けられません。
- 4M以上の写真は、フレームを付けると3Mにリサイズされます。

4
再生と加工

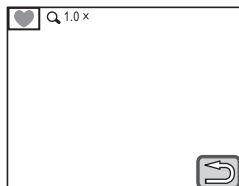
フレームを作る

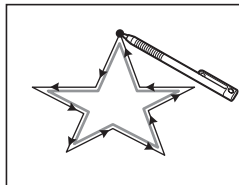
撮影した画像から、フレームを作成して使うことができます。

1 フレーム選択画面で［新規］をタッチする

- 作成方法選択画面が表示されます。
- 切り取り方法を選択します。

自由切取りで切り取る場合

2 ［自由切取り］をタッチする

画像切取り画面が表示されます。

3 ドラッグして切り取る範囲を選択する

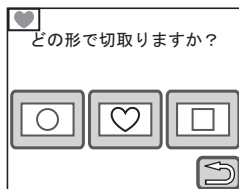
- 切り取る範囲は一筆書きで選択します。線で囲まれた部分ができ、スタイラスペンを画面から離すと切り取り範囲が確定します。
- ズームレバーで画像を拡大した状態で切り取ることができます。ただし、切り取り範囲が確定した後では拡大/縮小できません。
- 手順4に進むまで何回でも切り取る範囲を追加できます。
- 切り取る範囲を変更する場合は［取消］をタッチして選択し直してください。

4 ［決定］をタッチする

確認画面が表示されます。

5 ［保存］をタッチする

フレームが登録されてフレーム選択画面に戻ります。

定型切取りで切り取る場合

2 **［定型切取り］をタッチする**

定型選択画面が表示されます。

3 **切り取る型を選び、タッチする**

定型画像切取り画面が表示されます。

- 切り取る位置はドラッグして調整ができます。
- 画面右上にある拡大/縮小ボタンで切り取る大きさを3段階で変更できます。（大/中/小）初期値は中。
- ［切り取り枠追加］をタッチすると、それまでの切り取り枠を確定して、同じ型で追加切り取りができます。ただし、拡大した画面には追加できません。

4 **［決定］をタッチする**

確認画面が表示されます。

5 **［保存］をタッチする**

フレームが登録されてフレーム選択画面に戻ります。

フレームをダウンロードする

ホームページなどから入手したフレームを新たに登録できます。入手したフレームは、内蔵メモリーやSDメモリーカードにコピーしておいてください。

> 新しいフレームは、弊社ホームページの下記アドレスからダウンロードできます。
> http://www.pentax.co.jp/japan/support/download/digital/frame_01.html

注意

- ダウンロードしたフレームは解凍して、内蔵メモリーやSDメモリーカードのFRAMEフォルダにコピーしてください。
- 内蔵メモリーや SD メモリーカードを本機でフォーマットすると FRAME フォルダが作成されますので、その中にコピーしてください。

写真の色調を変える（カラーフィルタ）

［カラーフィルタ］を使って写真の色調を変えることができます。
選択できる［カラーフィルタ］は、白黒、セピア、カラー（8色）、白黒+赤、白黒+緑、白黒+青の13種類です。

1 再生モードで矢印アイコン（《》）をタッチして、色調を変える写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（《》）をタッチして画面を切り替えます。

4 パレットアイコンをダブルタッチする

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 ［カラーフィルタ］をタッチする

色調を変える画面が表示されます。

6 使用するカラーフィルタをタッチする

選択したカラーフィルタの適用結果をプレビューできます。

7 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

9 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- カラーフィルタが適用された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

4
再生と加工

魚眼レンズ風に写真を加工する（フィッシュアイフィルタ）

撮影済みの写真に、魚眼レンズを使って撮影したようなイメージの加工処理を行います。

1 **再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、加工する写真を選ぶ**

2 **液晶モニターをタッチする**

［再生ツールバー］が表示されます。

3 **MODE PALETTEアイコンをタッチする**

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

4 **アイコンをダブルタッチする**

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 **［フィッシュアイフィルタ］アイコンをタッチする**

効果を調整する画面が表示されます。

6 **矢印アイコン（≪≫）をタッチして、効果を調整する**

- 調整結果をプレビューできます。
- 矢印アイコンの間にある■ ■ ■をタッチして調整することもできます。

7 **［決定］をタッチする**

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 **［終了］をタッチする**

保存方法を選択する画面が表示されます。

9 **［上書き保存］または［新規保存］をタッチする**

- フィッシュアイフィルタが適用された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

写真の明るさを変える（明るさフィルタ）

1 再生モードで矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして、明るさを変える写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 ［明るさフィルタ］アイコンをタッチする

明るさを調整する画面が表示されます。

明るさバー

6 ⊟または⊞アイコンをタッチして、明るさを調整する

- 調整結果をプレビューできます。
- 明るさバーをタッチして調整することもできます。

7 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

9 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- 明るさフィルタが適用された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

写真をソフトに/イラスト風に/スリムにする

［デジタルフィルタ］を使うと、写真をソフトな感じにしたり、イラスト風にしたり、被写体をやせた感じや太った感じにすることができます。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、加工する写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 「デジタルエフェクト」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 アイコンをタッチする

デジタルフィルタを選択する画面が表示されます。

6 使用するデジタルフィルタをタッチする

選択したデジタルフィルタの適用結果をプレビューできます。

SOFT ：写真をソフトな感じにします。
　：写真をイラスト風にします。
　：写真に紗をかけたような感じにします。
　：被写体をやせた感じや太った感じにします。

7 ［決定］をタッチする

「デジタルエフェクト」画面に戻ります。

8 ［終了］をタッチする

保存方法を選択する画面が表示されます。

9 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- デジタルフィルタが適用された写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。

4 再生と加工

人物の赤目を補正する

ストロボ撮影で人物の目が赤く写った写真を補正します。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、赤目を補正する写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTE アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 赤目補正が実行されます。赤目補正が成功した場合は、手順7に進み、写真を保存します。
  赤目補正が失敗した場合は、エラー画面で［了解］をタッチすると「赤目補正」画面が表示されます。その場合は、手順5に進み、赤目補正する部分を指定します。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 補正する部分をタッチする

［決定］をタッチするまで、続けて赤目の個所を選択できます。

6 ［決定］をタッチする

- 保存方法を選択する画面が表示されます。
- すべての赤目補正に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

7 ［上書き保存］または［新規保存］をタッチする

- 赤目を補正した写真が保存されます。
- 写真がプロテクトされているときは、自動的に新規保存されます。
- ［キャンセル］を選択した場合は、保存せずに再生モードパレットに戻ります。

注意

- 動画やカメラ側で赤目画像と特定できなかった写真は、赤目補正できません。
- 複数個所を選択した場合、1 箇所以上補正が成功すると保存方法を選択する画面が表示されます。
- 赤目補正できるのは、このカメラで撮影した写真のみです。

4 再生と加工

写真に音声を付ける（ボイスメモ）

撮影した写真に音声（ボイスメモ）を付けることができます。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、ボイスメモを付ける写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTEアイコンをタッチする

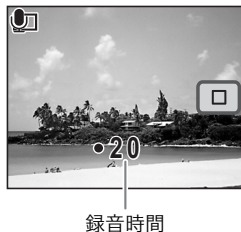
- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

- ボイスメモの録音を開始します。ボイスメモは、最長60秒間まで録音できます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

録音時間

5 □アイコンをタッチする

ボイスメモの録音が終了します。

注意

- すでにボイスメモが録音されている写真にボイスメモを上書きすることはできません。いったん音声を消去してから、もう一度録音してください(p.100)。
- プロテクトされている画像にボイスメモを付けることはできません。

メモ

ボイスメモを消去する方法については、「ボイスメモを消去する」(p.100)をご覧ください。

お気に入りの写真を起動画面にする

SDメモリーカードに保存されている写真から気に入った写真を指定し、カメラの起動時に表示することができます。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、起動時に表示させたい写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 設定画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 矢印アイコン（≪≫）をタッチして起動画面を切り替える

「オフ」を選択すると、起動画面が表示されなくなります。

6 ［決定］をタッチする

起動画面の設定が保存されます。

注意

起動画面として登録済みの写真は、元の写真を消去したり、SDメモリーカードや内蔵メモリーをフォーマットしても消去されません。カメラの設定内容をリセットしても消去されません。

4 再生と加工

動画の1コマを静止画として保存する

1 再生モードで矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして、静止画を切り出す動画を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTE アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして画面を切り替えます。

4 ✂アイコンをダブルタッチする

- 「動画編集」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 ［静止画保存］をタッチする

6 ◁|| ||▷ アイコンをタッチして、静止画として保存するコマを選ぶ

- ▷ アイコンを押すと動画が再生され、□ アイコンを押すと再生を停止します。
- 再生中に ॥ アイコンをタッチすると一時停止します。

7 ［決定］をタッチする

選択したコマが静止画として保存されます。

動画を分割する

1 再生モードで矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして、分割する動画を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 MODE PALETTE アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして画面を切り替えます。

4 ✂アイコンをダブルタッチする

- 「動画編集」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 ［動画分割］をタッチする

6 ◁|| ||▷ アイコンをタッチして、分割するコマを選ぶ

- ▶ アイコンを押すと動画が再生され、■ アイコンを押すと再生を停止します。
- 再生中に ⏸ アイコンをタッチすると一時停止します。

7 ［決定］をタッチする

分割を確認する画面が表示されます。

8 ［分割］をタッチする

- 選択したコマで動画が２つに分割されます。
- 分割された２つの動画が新しく保存され、元の動画は消去されます。

注意

プロテクトされている動画は分割できません。

動画を結合する

1 再生モードで矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして、前半になる動画を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 「動画編集」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 ［動画結合］をタッチする

6 矢印アイコン（⊠⊠）をタッチして、結合する動画を選ぶ

7 ［決定］をタッチする

結合を確認する画面が表示されます。

8 ［結合］をタッチする

- 結合した動画が保存されます。
- 結合前の動画は消去されます。

注意

- プロテクトされている動画は結合できません。
- 動画が1つしかない場合は結合できません。
- 同じ動画を結合することはできません。

画像や音声をコピーする

内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像や音声をコピーします。

注意

- カメラに SD メモリーカードが入っていないと、この機能は使用できません。
- SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源をオフにしてください。
- 内蔵メモリーカードから SD メモリーカードへのコピーは、SD メモリーカードに十分な空き容量がないと実行できません。画像をコピーする前に、SDメモリーカードに十分な空き容量があることを確認しておいてください。

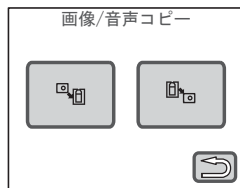
1 再生モードで液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

2 アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 アイコンをダブルタッチする

- コピー方法を選択する画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

内蔵メモリーからSDメモリーカードにコピーする

内蔵メモリー内のすべての画像と音声をSDメモリーカードにまとめてコピーします。

4 アイコンをタッチする

すべての画像と音声がコピーされます。

SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする

SDメモリーカード内の画像や音声を1つずつ選んで、内蔵メモリーにコピーします。

4 アイコンをタッチする

5 矢印アイコン（《》）をタッチしてコピーするファイルを選ぶ

6 ［決定］をタッチする

選択した画像または音声がコピーされます。

メモ

- 音声付きの写真は、音声付きのままコピーされます。
- プロテクトされている写真/動画/音声ファイルはコピー後もプロテクトされます。

5 印刷する

プリント予約する（DPOF設定）

DPOF（Digital Print Order Format）とは、デジタルカメラで撮影した写真にプリントのための情報を記録するフォーマットです。撮影した写真にDPOF設定をすると、DPOF対応プリンターやプリントサービス店でプリントできます。

1枚ずつ設定する

1枚ずつ確認しながら、プリント枚数と日付プリントの有無を設定します。

1 再生モードで矢印アイコン（≪≫）をタッチして、プリント予約する写真を選ぶ

2 液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

3 アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

4 アイコンをダブルタッチする

- 「DPOF」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。

5 ［1画像］をタッチする

選択した写真にDPOF設定する画面が表示されます。

6 ［日付］をタッチする

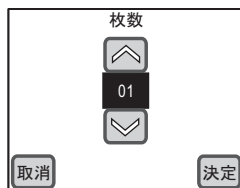
☑（オン）/□（オフ）が切り替わります。

☑：プリントに日付を入れる

□ ：プリントに日付を入れない

7 ［枚数］をタッチする

「枚数」画面が表示されます。

8 矢印アイコン（⩓⩔）をタッチしてプリント枚数を設定する

99枚まで設定できます。

9 ［決定］をタッチする

手順5の画面に戻ります。

10 矢印アイコン（≪≫）をタッチして写真を選び、手順6～9を繰り返す

11 ［決定］をタッチする

DPOF設定が保存されます。

注意

プリンターやプリントサービス店のプリント機器によっては、DPOFの設定で［日付］を［オン］にしても日付がプリントされないことがあります。

メモ

- プリント枚数は、99枚まで設定できます。
- DPOF設定を解除するには、手順8で［枚数］を「00」に設定します。

まとめて設定する

カメラに保存されているすべての写真に、同じプリント枚数と日付の有無を設定します。

1 再生モードで液晶モニターをタッチする

［再生ツールバー］が表示されます。

2 MODE PALETTE アイコンをタッチする

- ［再生モードパレット］が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 DPOF アイコンをダブルタッチする

- 「DPOF」画面が表示されます。
- ガイドチェックボックスがチェックされた状態でタッチすると、ガイド画面が表示されます。
- 動画や音声ファイルでは「DPOF」画面は表示されません。

4 ［全画像］をタッチする

すべての写真にまとめてDPOF設定する画面が表示されます。

5 日付印刷の有無とプリント枚数を設定する

設定の方法は、「1枚ずつ設定する」の手順6～9をご覧ください（p.133）。

6 ［決定］をタッチする

DPOF設定が保存されます。

注意

まとめて設定する場合、すべての写真に同じプリント枚数が設定されます。プリントをする前に、必ず枚数の設定を確認してください。

メモ

まとめて設定すると、1枚ずつのDPOF設定は解除されます。

カメラとプリンターをつないでプリントする（PictBridge）

付属のUSBケーブルでカメラをPictBridge対応のプリンターに接続すると、パソコンを使わなくても、カメラから直接写真をプリントできます。プリントする写真の選択やプリント枚数、日付プリントの有無は、カメラとプリンターを接続した状態で、カメラ側で設定します。

注意

- カメラをプリンターに接続するときは､別売のACアダプターキットのご使用をおすすめします。カメラがプリンターと通信中にバッテリーが消耗すると、プリンターが誤動作したり、写真データが壊れることがあります。
- データ転送中は、USBケーブルを抜かないでください。
- プリンターの機種によっては、カメラ側の設定（日付プリントの有無、DPOF設定など）が一部反映されないことがあります。
- 1枚の用紙に複数の写真をプリントする設定は、カメラ側ではできません。プリンター側で設定するか、パソコンを使って印刷してください。

カメラをプリンターに接続する

1 カメラの［USB接続］モードを「PictBridge」に設定する

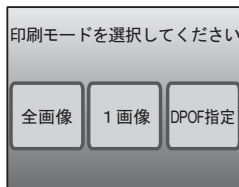
［USB接続］モードの設定方法は、「パソコンにつなぐかプリンターにつなぐか切り替える」（p.153）をご覧ください。

2 カメラの電源をオフにする

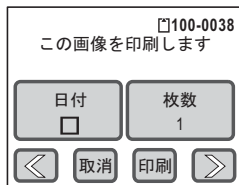
3 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続する

4 プリンターの電源をオンにする

5 プリンターの起動が完了したら、カメラの電源をオンにする

印刷モードを選択する画面が表示されます。

1枚ずつプリントする

1 印刷モードを選択する画面で[1画像]をタッチする

日付と枚数を設定する画面が表示されます。

2 ［日付］をタッチする

☑（オン）/□（オフ）が切り替わります。

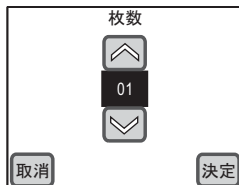
☑：プリントに日付を入れる

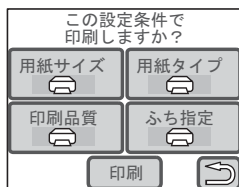
□：プリントに日付を入れない

3 ［枚数］をタッチする

「枚数」画面が表示されます。

4 矢印アイコン（△▽）をタッチしてプリント枚数を設定する

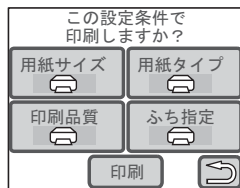
- 99枚まで設定できます。
- ［決定］をタッチすると、手順1の画面に戻ります。

5 ［印刷］をタッチする

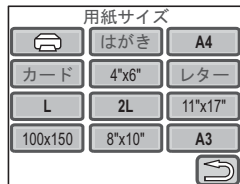
- 印刷設定を確認する画面が表示されます。
- 印刷設定を変更するときは、「印刷設定を変更するときは」(p.137)をご覧ください。

6 ［印刷］をタッチする

- プリントが開始されます。
- プリント中に［印刷中止］をタッチすると、プリントが中止されます。

印刷設定を変更するときは

5 ［印刷］をタッチする

印刷設定を確認する画面が表示されます。

6 ［用紙サイズ］をタッチする

「用紙サイズ」画面が表示されます。

7 用紙サイズをタッチする

お使いのプリンターで印刷可能な用紙だけが選択できます。

8 手順6～7を繰り返して、［用紙タイプ］［印刷品質］［ふち指定］を設定する

- 🖶を選択するとプリンター側の設定に従います。
- ［用紙タイプ］は、★の数が多いほど高品質な用紙に対応します。
- ［印刷品質］は、★の数が多いほど高品質な印刷を行います。

9 ［印刷］をタッチする

- 設定した条件でプリントが開始されます。
- プリント中に［印刷中止］をタッチすると、プリントが中止されます。

メモ

- カメラとプリンターを接続中は電源ランプが点灯し、プリントする写真データを転送中は電源ランプが点滅します。電源ランプが点滅中は、USBケーブルを取り外さないでください。
- 印刷設定（［用紙サイズ］、［用紙タイプ］、［印刷品質］、［ふち指定］）は、カメラの電源を切ると、初期状態に戻ります。

まとめてプリントする

1 印刷モードを選択する画面（p.135の手順5）で［全画像］をタッチする

日付と枚数を設定する画面が表示されます。

2 日付プリントの有無とプリント枚数を設定する

設定の方法は、「1枚ずつプリントする」の手順2～4をご覧ください（p.136）。

3 ［印刷］をタッチする

- 印刷設定を確認する画面が表示されます。
- 印刷設定を変更するときは、「印刷設定を変更するときは」（p.137）をご覧ください。

4 ［印刷］をタッチする

- プリントが開始されます。
- プリント中に［印刷中止］をタッチすると、プリントが中止されます。

DPOFの設定でプリントする

1 印刷モードを選択する画面（p.135の手順5）で［DPOF指定］をタッチする

- DPOF設定の内容が表示されます。
- ≪≫をタッチすると、他の画像のDPOF設定を確認できます。

2 ［印刷］をタッチする

- 印刷設定を確認する画面が表示されます。
- 印刷設定を変更するときは、「印刷設定を変更するときは」（p.137）をご覧ください。

3 ［印刷］をタッチする

- プリントが開始されます。
- プリント中に［印刷中止］をタッチすると、プリントが中止されます。

USBケーブルを取り外す

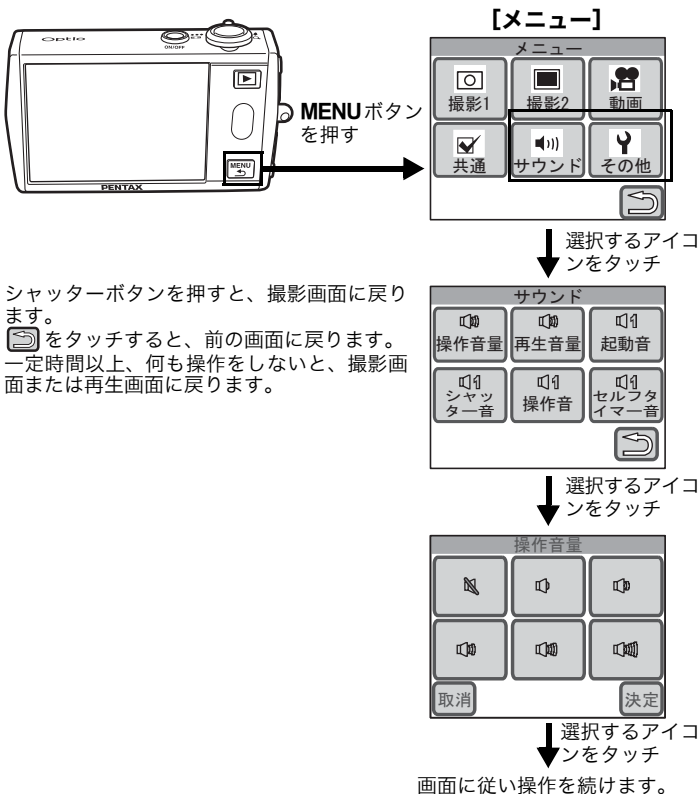
プリントが終了したら、USBケーブルをカメラとプリンターから取り外します。

1 カメラの電源をオフにする

2 カメラとプリンターからUSBケーブルを取り外す

設定メニューを使う

撮影モードまたは再生モード時に**MENU**ボタンを押すと、カメラの様々な機能を設定する［メニュー］が表示されます。ここでは、［サウンド］と［その他］の設定項目について説明します（［撮影1］［撮影2］［動画］［共通］については、p.35をご覧ください）。

- シャッターボタンを押すと、撮影画面に戻ります。
- 〔戻る〕をタッチすると、前の画面に戻ります。
- 一定時間以上、何も操作をしないと、撮影画面または再生画面に戻ります。

[サウンド] で設定すること

項目	内容	初期状態	参照
操作音量	操作時のアラート音など操作音の音量を設定します。	3	p.145
再生音量	動画や音声再生時の音量を設定します。	3	p.145
起動音	起動音の種類を設定します。	1	p.146
シャッター音	シャッター音の種類を設定します。	1	p.146
操作音	操作音の種類を設定します。	1	p.146
セルフタイマー音	セルフタイマーのカウントダウン音の種類を設定します。	1	p.146

[その他] で設定すること

項目	内容	初期状態	参照
フォーマット	SDメモリーカードまたは内蔵メモリーをフォーマットします。	―	p.142
日時設定	日付、時刻、それぞれの表示スタイルを設定します。	初期設定による	p.143
ワールドタイム	世界時計を設定します。	オフ	p.147
Language/言語	メニューやメッセージを表示する言語を設定します。	初期設定による	p.151
フォルダ名	画像や音声を日付ごとに別フォルダに保存するようにできます。	日付	p.152
USB接続	USBケーブルの接続先を設定します。	PC	p.153
ビデオ出力	AV機器へのビデオ出力形式を設定します。	初期設定による	p.154
LCDの明るさ	液晶モニターの明るさを設定します。	4（標準）	p.155
エコモード	液晶モニターが暗くなるまでの時間を設定します。	5秒	p.156
オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	3分	p.157
ガイド表示	ガイド画面を表示させるかどうかを設定します。	オン	p.158
リセット	日時、言語、ワールドタイム、ビデオ出力以外の設定内容を初期状態に戻します。	―	p.159

フォーマットする

内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されているすべてのデータを消去します。
SDメモリーカードがセットされている場合は、SDメモリーカードのデータが消去されます。SDメモリーカードがセットされていない場合は、内蔵メモリーのデータが消去されます。

注意

- SDメモリーカードのフォーマット中は、カードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなることがあります。
- SDメモリーカードがライトプロテクトされている場合、そのカードはフォーマットできません（p.19）。
- フォーマットすると、プロテクトされた画像や音声、このカメラ以外で記録したデータも消去されます。
- パソコンなど、このカメラ以外の機器でフォーマットしたSDメモリーカードは使用できません。SDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマットしてください。
- フォーマットしたSDメモリーカードからでも、市販のデータ修復ソフトを使用してデータを取り出せることがあります。SDメモリーカードを廃棄するときは、カードを物理的に破壊することを、また、譲渡するときは、市販のデータ消去ソフトなどを使ってカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。カード内のデータは、お客様の責任において管理してください。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

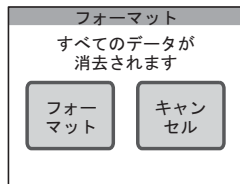
2 ［その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 ［フォーマット］をタッチする

「フォーマット」画面が表示されます。

4 ［フォーマット］をタッチする

フォーマットが開始されます。フォーマットが終わると撮影できる状態になります。

日時を変更する

日付と時刻を変更します。また、カメラに表示される日付と時刻の表示スタイルを設定します。

[表示スタイル] を設定する

1 MENUボタンを押す

[メニュー] が表示されます。

2 [その他] をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン (《》) をタッチして画面を切り替えます。

3 [日時設定] をタッチする

「日時設定」画面が表示されます。

4 [表示スタイル] をタッチする

「表示スタイル」画面が表示されます。

5 矢印アイコン (《》) をタッチして、年、月、日の表示順を選ぶ

[年/月/日] [日/月/年] [月/日/年] から選択できます。

6 矢印アイコン (《》) をタッチして、時間表示を選ぶ

[24h] (24時間表示) または [12h] (12時間表示) から選択できます。

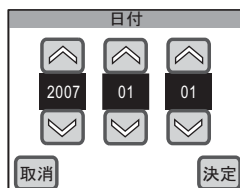
7 [決定] をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

[日付] を設定するには

1 「日時設定」画面で [日付] をタッチする

「日付」画面が表示されます。

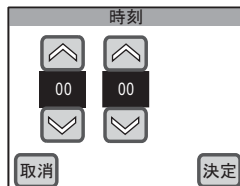
2 矢印アイコン（）をタッチして [日付] を設定する

3 [決定] をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

[時刻] を設定するには

1 「日時設定」画面で [時刻] をタッチする

「時刻」画面が表示されます。

2 矢印アイコン（）をタッチして [時刻] を設定する

3 [決定] をタッチする

設定が保存され、「日時設定」画面に戻ります。

- 時刻の設定終了後、[決定] をタッチすると、0秒にセットされます。時報に合わせて[決定]をタッチすると、秒単位まで正確な日時設定ができます。
- 電源OFF時にシャッターボタンを長押し（0.5秒以上）すると、設定した日付と時刻が液晶モニターに表示されます。電源ボタンを押すか、10秒経つと電源が切れます。（スタイルウォッチ機能）

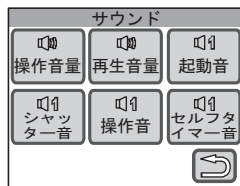
サウンドの設定を変更する

操作や再生するときの音量、起動音やシャッター音、操作音、セルフタイマー音の種類が変更できます。音を鳴らさないようにもできます。

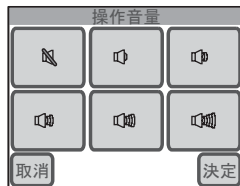
1　MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2　［サウンド］をタッチする

「サウンド」画面が表示されます。

［操作音量］/［再生音量］を変更する

1　「サウンド」画面で［操作音量］をタッチする

「操作音量」画面が表示されます。

2　設定する操作音量のアイコンをタッチする

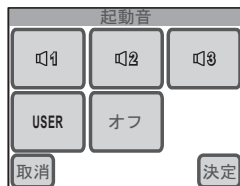
（音量0）～（音量5）まで選択できます。（音量0）のときは、操作時に音が鳴りません。

3　［決定］をタッチする

設定が保存され、「サウンド」画面に戻ります。

[起動音] / [シャッター音] / [操作音] / [セルフタイマー音] の種類を変更する

1 「サウンド」画面で設定するサウンドをタッチする

音の種類を選択する画面が表示されます。

2 設定する音の種類のアイコンをタッチする

- [1] [2] [3] [USER] [オフ] から選択できます。タッチすると選択した音が再生されます。[オフ] のときは、音が鳴りません。
- [USER] を選択すると、自分で録音した音声の先頭2秒間を割り当てることができます。

3 [決定] をタッチする

設定が保存され、「サウンド」画面に戻ります。

[USER] 音を設定する

1 手順2で [USER] をタッチしてから [決定] をタッチする

カメラに [USER] 音として設定できる音声ある場合、再生画面が表示されます。

2 矢印アイコン (≪≫) をタッチして、音声を選ぶ

▶ ：先頭の2秒間を再生します。

□ ：再生を終了します。

3 [決定] をタッチする

- 設定が保存され、「サウンド」画面に戻ります。
- 選んだ音声の先頭の2秒間が、前項の手順1で選んだサウンドの [USER] 音として設定されます。

世界時計を設定する（ワールドタイム）

「言語と日時を設定します」(p.21) や「日時を変更する」(p.143) で設定した日時は、[現在地] の日時です。[ワールドタイム] を設定しておくと、海外で使用するとき、液晶モニターに [目的地] として設定した国や地域の日時を表示できます。

[目的地] を設定する

1 MENUボタンを押す

[メニュー] が表示されます。

2 [その他] をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 [ワールドタイム] をタッチする

「ワールドタイム」画面が表示されます。

4 [目的地] をタッチする

「目的地」画面が表示されます。現在設定されている都市が地図上で緑色に点灯します。

5 地図の両側の矢印アイコン（≪≫）をタッチして、目的の都市が表示されている地図を選択する

地図枠は、ドラッグして移動することもできます。

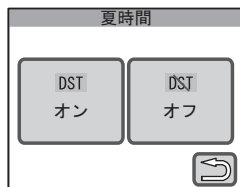
6 都市名の両側の矢印アイコン（《》）をタッチして、目的地の都市名を選ぶ

選択した都市の現在の時刻が表示されます。

7 DST アイコンをタッチする

「夏時間」画面が表示されます。

8 ［オン］または［オフ］をタッチする

［オン］: 夏時間を使用する
［オフ］: 夏時間を使用しない
設定が保存され、「目的地」画面に戻ります。

9 をタッチする

「ワールドタイム」画面に戻ります。

［目的地］の日時をカメラに表示させる

1 「ワールドタイム」画面で［時刻切替］をタッチする

「時刻切替」画面が表示されます。

2 ［目的地］をタッチする

設定が保存され、「ワールドタイム」画面に戻ります。

3 を3回タッチする

撮影できる状態になります。
「ワールドタイム」が設定されているときは、液晶モニターに✈アイコンが表示されます。

メモ

p.147の手順4で［現在地］をタッチすると、現在地の都市や夏時間を設定できます。

ワールドタイムで指定できる都市名

地域	都市名
北米	ホノルル
	アンカレジ
	バンクーバー
	サンフランシスコ
	ロサンゼルス
	カルガリー
	デンバー
	シカゴ
	マイアミ
	トロント
	ニューヨーク
	ハリファックス
中南米	メキシコシティ
	リマ
	サンティアゴ
	カラカス
	ブエノスアイレス
	サンパウロ
	リオデジャネイロ
ヨーロッパ	リスボン
	マドリード
	ロンドン
	パリ
	アムステルダム
	ミラノ
	ローマ
	コペンハーゲン
	ベルリン
	プラハ
	ストックホルム
	ブダペスト
	ワルシャワ
	アテネ
	ヘルシンキ
	モスクワ

地域	都市名
アフリカ・西アジア	ダカール
	アルジェ
	ヨハネスブルグ
	イスタンブール
	カイロ
	エルサレム
	ナイロビ
	ジッダ
	テヘラン
	ドバイ
	カラチ
	カブール
	マーレ
	デリー
	コロンボ
	カトマンズ
	ダッカ
東アジア	ヤンゴン
	バンコク
	クアラルンプール
	ビエンチャン
	シンガポール
	プノンペン
	ホーチミン
	ジャカルタ
	香港
	北京
	上海
	マニラ
	台北
	ソウル
	東京
	グアム
オセアニア	パース
	アデレード

地域	都市名
オセアニア	シドニー
	ヌーメア
	ウェリントン
	オークランド
	パゴパゴ

表示言語を変更する

メニューやエラーメッセージなどをカメラの液晶モニターに表示する言語を変更します。
日本語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、オランダ語、フィンランド語、ポーランド語、チェコ語、ハンガリー語、トルコ語、デンマーク語、スウェーデン語、ロシア語、タイ語、韓国語、中国語（繁体字/簡体字）から選択することができます。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして画面を切り替えます。

3 ［Language/言語］をタッチする

「Language/言語」画面が表示されます。

4 設定する言語をタッチする

- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。
- 設定する言語が画面に表示されていないときは、矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして、画面を切り替えます。

5 ⮌を2回タッチする

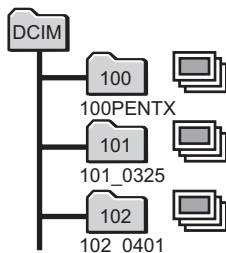
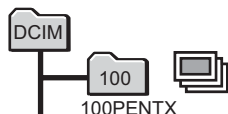
撮影できる状態になります。

フォルダ名を変更する

撮影した画像や音声を保存するフォルダ名の付け方を設定します。初期設定は「日付」になっていますので、撮影日ごとに違うフォルダに保存されます。

フォルダ名の付け方

🗀	標準	XXXPENTX（XXXは3桁のフォルダ番号） 9999個のファイルまで同じフォルダに保存されます。ただし、最大ファイル番号は9999です。
🗓	日付	XXX_mmdd（3桁のフォルダ番号_月日） 日付ごとに違うフォルダに保存されます。

「標準」で撮影　「日付」で撮影

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（⟪⟫）をタッチして画面を切り替えます。

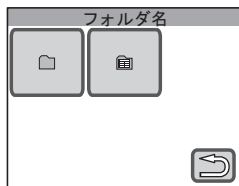
3 ［フォルダ名］をタッチする

「フォルダ名」画面が表示されます。

4 🗀（標準）または🗓（日付）アイコンをタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 ↩を2回タッチする

撮影できる状態になります。

パソコンにつなぐかプリンターにつなぐか切り替える（USB接続）

USBケーブルの接続先（パソコンまたはPictBridge対応プリンター）に応じて、[USB接続]モードを切り替えます。

1 MENUボタンを押す

[メニュー］が表示されます。

2 [その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（《》）をタッチして画面を切り替えます。

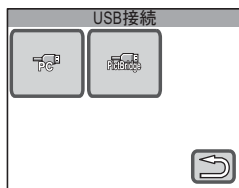
3 [USB接続］をタッチする

「USB接続」画面が表示されます。

4 （PC）または（PictBridge）アイコンをタッチする

：パソコンに画像や音声を転送する場合

：PictBridge対応のプリンターに接続する場合

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

5 を2回タッチする

撮影できる状態になります。

注意

[USB接続]で（PC）に設定した状態で、カメラをプリンターに接続しないでください。また、（PictBridge）に設定した状態で、カメラをパソコンに接続しないでください。

メモ

パソコンとの接続方法については、別紙の「PC接続ガイド」をご覧ください。

ビデオ出力方式を選択する

AV機器と接続して撮影や再生するときのビデオ出力方式をNTSC方式とPAL方式から選択します。
国や地域によっては、ビデオ出力方式が、初期状態（[NTSC]）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を［PAL］に切り替えてください。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

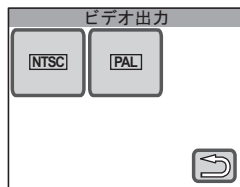
2 ［その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 ≪か≫アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 ［ビデオ出力］をタッチする

「ビデオ出力」画面が表示されます。

5 [NTSC] または [PAL] をタッチする

- 接続するAV機器のビデオ出力方式に合わせて選択します。
- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 を2回タッチする

撮影できる状態になります。

6 カメラを設定する

液晶モニターの明るさを設定する

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 ≪か≫アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 ［LCDの明るさ］をタッチする

「LCDの明るさ」画面が表示されます。

5 ⊟または⊞アイコンをタッチして明るさを調整する

- ⊟アイコンをタッチすると暗く、⊞アイコンをタッチすると明るくなります。
- ドラッグして調整することもできます。

6 ［決定］をタッチする

設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

7 ↩を2回タッチする

撮影できる状態になります。

時間が経つと画面を暗くする（エコモード）

一定時間操作をしないと液晶モニターの明るさが自動的に暗くなるように設定することで、バッテリーの消耗を軽減します。液晶モニターが暗くなったときは、いずれかのボタンを操作すると、元の明るさに戻ります。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（《》）をタッチして画面を切り替えます。

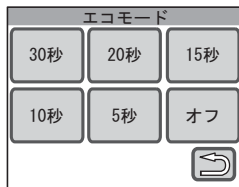
3 《か》アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 ［エコモード］をタッチする

「エコモード」画面が表示されます。

5 液晶モニターが暗くなるまでの時間をタッチする

- ［30秒］［20秒］［15秒］［10秒］［5秒］［オフ］（暗くしない）から選択できます。
- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 ⮌を2回タッチする

撮影できる状態になります。

メモ

以下の場合は、［エコモード］を設定していても、液晶モニターは暗くなりません。

- ACアダプター使用時
- 動画撮影中
- 再生モード中
- ビデオ出力中

時間が経つと電源をオフにする（オートパワーオフ）

一定時間操作をしないと、自動的に電源が切れるように設定できます。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（⪡⪢）をタッチして画面を切り替えます。

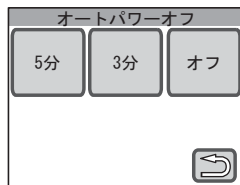
3 ⪡か⪢アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 ［オートパワーオフ］をタッチする

「オートパワーオフ」画面が表示されます。

5 電源が切れるまでの時間をタッチして選ぶ

- ［5分］［3分］［オフ］（電源を切らない）から選択できます。
- 設定が保存され、一つ前の画面に戻ります。

6 を2回タッチする

撮影できる状態になります。

メモ

パソコンやプリンターと接続中は、［オートパワーオフ］を［オフ］以外に設定していても、カメラの電源は切れません。

6 カメラを設定する

ガイド表示を設定する

［撮影モードパレット］や［再生モードパレット］でアイコンをタッチしたときに、ガイド画面（そのアイコンの機能の説明画面）を表示させるかどうかを設定します。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

2 ［その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（《》）をタッチして画面を切り替えます。

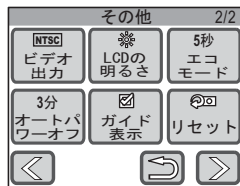
3 《か》アイコンをタッチする

「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 ［ガイド表示］をタッチする

☑（オン）/□（オフ）が切り替わります。

☑：ガイド画面を表示させる

□　：ガイド画面を表示させない

5 ⮌を2回タッチする

撮影できる状態になります。

- ［ガイド表示］が「オン」に設定されている場合でも、使用する機能のアイコンをダブルタッチすると、ガイド画面の表示を省略できます。
- 撮影モードパレット/再生モードパレット画面の下にある「ガイドボタン」をタッチしても、ガイド表示のオン/オフを切り替えることができます。

変更した設定を初期状態に戻す（リセット）

カメラの設定内容を初期状態に戻します。
ただし、言語、日時、ワールドタイム、ビデオ出力の設定は、設定をリセットする前の状態のまま保存されます。

1 MENUボタンを押す

［メニュー］が表示されます。

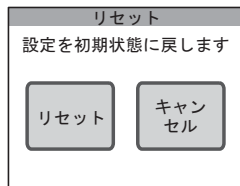
2 ［その他］をタッチする

- 「その他」画面が表示されます。
- 選択したいアイコンが表示されていない場合は、矢印アイコン（≪≫）をタッチして画面を切り替えます。

3 ≪か≫アイコンをタッチする

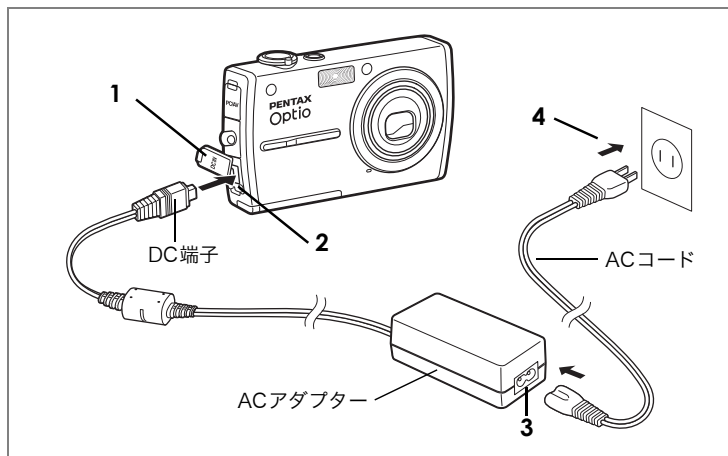
「その他」画面の2ページ目が表示されます。

4 ［リセット］をタッチする

「リセット」画面が表示されます。

5 ［リセット］をタッチする

カメラの設定内容がリセットされ、撮影できる状態になります。

7 付録

ACアダプターを使用する

長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、ACアダプターキット「K-AC63J」（別売）のご使用をおすすめします。

1 カメラの電源が切れていることを確認してから、DC 入力端子のカバーを開ける

2 ACアダプターのDC端子をカメラのDC入力端子に接続する

3 ACコードをACアダプターに接続する

4 電源プラグをコンセントに差し込む

注意

- ACアダプターの接続や取り外しは、必ずカメラの電源が切れた状態で行ってください。
- 電源および接続ケーブルはしっかりと差し込んでください。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーにデータを記録中にケーブルが外れると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターを使用する場合は、火災や感電に十分ご注意ください。
- ご使用の前に、必ず「ご注意ください」(p.7)をお読みください。
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキット「K-AC63J」の使用説明書をあわせてご覧ください。
- ACアダプターを接続しても、カメラ内のバッテリーを充電することはできません。

別売アクセサリー一覧

本機には、別売アクセサリーとして以下の製品が用意されています。

ACアダプターキット K-AC63J

充電式リチウムイオンバッテリー D-LI 63（※）

バッテリー充電器キット K-BC63J（※）
（バッテリー充電器 D-BC63、ACコード D-CO24Jのセット）

USBケーブル I-USB7（※）

AVケーブル I-AVC7（※）

ストラップ O-ST20（※）

ストラップ O-ST8

レザーストラップ O-ST24

スポーツストラップ O-ST30

カメラケース O-CC63

リモートコントロール E（ズーム対応品）

リモートコントロール F

（※）の製品は同梱品と同じものです。

メッセージ一覧

カメラを使用中に、液晶モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

電池容量がなくなりました	バッテリーの残量がありません。バッテリーを充電器で充電してください（p.14）。
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像や音声が保存されていて、これ以上画像や音声を保存できません。 新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像や音声を消去してください（p.17、p.99）。 写真の画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります（p.53、p.105）。
内蔵メモリーの空き容量がありません	内蔵メモリーに容量いっぱいの画像や音声が保存されていて、これ以上画像や音声を保存できません。SDメモリーカードを使用するか、不要な画像や音声を消去してください（p.17、p.99）。写真の画質または記録サイズを変えると保存できる可能性があります（p.53、p.105）。
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影/再生共にできません。パソコン上では画像を表示またはコピーできる場合もあります。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています（p.142）。
カードがロックされています	SDメモリーカードがライトプロテクトされています（p.19）。
圧縮に失敗しました	画像の圧縮に失敗しました。写真の画質または記録サイズを変えると撮影できる可能性があります（p.53、p.105）。
画像/音声がありません	SDメモリーカードに再生できる画像や音声が保存されていません。
消去中です	画像や音声を消去中に表示されます。
この画像/音声を再生できません	このカメラでは再生できない画像や音声を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
フォルダが作成できません	最大のフォルダ番号（999）で最大のファイル番号（9999）が使用されているため、画像や音声を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください（p.17、p.142）。
記録中です	画像がまだ記録中なのに、再生モードや動画モードに切り替えたとき、またはプロテクト、DPOF設定記録中に表示されます。画像または設定の記録が終了したら表示が消えます。

プロテクトされています	プロテクトされた画像や音声を消去しようとした場合に表示されます。
処理中です	画像処理などに時間がかかり5秒以上スルー画像が表示できないとき、またはSDメモリーカードや内蔵メモリーをフォーマット中に表示されます
この画像/音声をリサイズできません	リサイズできない画像や音声をリサイズ時に選択した場合に表示されます。
この画像/音声をトリミングできません	トリミングできない画像や音声をトリミング時に選択した場合に表示されます。
カードが入っていません	画像/音声コピーを選択したとき、カメラにSDメモリーカードがセットされていない場合に表示されます。
カードの空き容量が足りません 画像/音声をコピーできません	画像/音声コピー時に、SDメモリーカードがフル状態でコピーできない場合に表示されます。
内蔵メモリーの空き容量がありません 画像/音声をコピーできません	画像/音声コピー時に、内蔵メモリがフル状態でコピーできない場合に表示されます。
処理できる画像がありません	削除画像復活を行ったときに復活可能な画像がない場合に表示されます。
この画像/音声を処理できません	再生パレット内で処理できない画像を選択した場合に表示されます。
マイスタンプが設定されていません	デジタルエフェクトのお絵かきモードでマイスタンプを選択したとき、スタンプを設定していない場合に表示されます。
正しく処理できませんでした	赤目補正に失敗した場合に表示されます。
切取り位置確定後は拡大/縮小できません	フレーム/マイスタンプ新規作成画面で、切り取り位置確定後にズームレバー操作をした場合に表示されます。

PictBridge機能を使用する場合に、液晶モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

用紙がありません	接続したプリンターの用紙がない場合に表示されます。
インクがありません	接続したプリンターのインクがない場合に表示されます。
プリンターエラーです	接続したプリンターからエラーメッセージが送られた場合に表示されます。
データエラーです	接続したプリンターからデータに関してのメッセージが送られた場合に表示されます。
用紙が詰まりました	接続したプリンターで紙詰まりが起こった場合に表示されます。

こんなときは？

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ、入れてください(p.15)。
	バッテリーの入れ方を間違えている	バッテリーの向きを確認し、入れ直してください（p.15)。
	バッテリーの残量がない	バッテリーを充電してください(p.14)。
	寒さでバッテリーの性能が一時的に低下した	バッテリーをポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。
液晶モニターに何も表示されない	カメラの電源がオフになっている	カメラの電源をオンにしてください(p.20)。
	パソコンに接続している	パソコンに接続しているときは、液晶モニターは常にオフになります。
	テレビに接続している	テレビに接続しているときは、液晶モニターは常にオフになります。
	表示モードが「オフ」になっている。	液晶モニターをタッチして、表示モードを切り替えてください(p.41)。
	[エコモード]が作動している	撮影時はシャッターボタン半押しで解除されます。
	表示はされているが、確認しづらい	日中屋外の撮影では、液晶モニターが表示されていても、確認しづらいことがあります。液晶モニターを明るく設定してください（p.155)。
シャッターが切れない	ストロボが充電中	ストロボ充電中は撮影できません。充電が完了すると撮影できます。
	SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに空き容量がない	空き容量のあるSDメモリーカードをセットするか、不要なファイルを消去してください（p.17、p.99)。写真の記録サイズや画質を変えると撮影できる可能性があります（p.53、p.105)。
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。

7 付録

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。あるいは、マニュアルフォーカスを使用してください（p.72）。
	AFエリア内に被写体が入っていない	AFエリア内にピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリア内にない場合は、撮りたいものをいったんAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
	被写体が近すぎる	[フォーカスモード]を（マクロ）にセットしてください（p.71）。
	[フォーカスモード］が（マクロ）になっている	[フォーカスモード]が（マクロ）のときは、40cmより遠いものには、ピントが合いません（p.71）。
	暗いためピントが合いにくい	[AF補助光］を「オン」に設定してください（p.74）。
ストロボが発光しない	ストロボの発光方法が（発光禁止）になっている	（オート）または（強制発光）に設定してください（p.61）。
	撮影モードが（動画）、[ドライブモード]が（連続撮影）、オートブラケットが（露出）、[フォーカスモード］が（無限遠）に設定されている	他のモードに切り替えてください。
写真がぶれている	撮影中にカメラが動いた	三脚やセルフタイマー、リモコンを使用してください（p.70）。
	撮影中に被写体が動いた	ストロボを使うか、ISO感度を高くするとシャッタースピードが速くなり、ぶれにくくなります。（p.70）。
撮影した写真の色がおかしい	ホワイトバランスの自動調整がうまくいかなかったか、設定が間違っていた	ホワイトバランスの設定を確認してください（p.63）。

現象	原因	対処方法
撮影した写真が暗すぎる	フラッシュが⊕（発光禁止）になっていた	⚡A（オート）または⚡（強制発光）に設定してください（p.61）。
	被写体までの距離が遠く、ストロボの光が届かなかった	ストロボの光が届く範囲で撮影してください（p.61）。
	カメラの露出調整がうまくいかなかった	露出を⊞側に補正してください（p.58）。
	被写体が逆光になっていた	スポット測光を利用すると、中央部の被写体を適切な明るさで撮影できます（p.60）。
撮影した写真が明るすぎる	ストロボが発光した	ストロボを発光させたくないときは、⊕（発光禁止）に設定してください。また、SOFT（ソフト発光）に設定するとストロボの光を弱めることができます（p.61）。
	カメラの露出調整がうまくいかなかった	露出を⊟側に補正してください（p.58）。
画像や音声が消去できない	SDメモリーカードがライトプロテクトされている	SDメモリーカードのライトプロテクトを外してください（p.19）。
	画像や音声がプロテクトされている	画像や音声のプロテクトを解除してください（p.102）。
内蔵メモリー内の画像や音声が再生できない	SDメモリーカードが入っている	SDメモリーカードを取り出してください（p.18）。 撮影モードで再生ボタンを2秒以上押し続けると内蔵メモリー内のデータを再生できます。
設定した機能が電源をオフにすると元に戻ってしまう	[モードメモリ]が「オフ」になっている	機能によっては、[モードメモリ]を「オン」にすることで電源をオフにしても設定を記憶させておけるものがあります（p.39）。
画像や音声ファイルに表示される日付が正しくない	[日時]が設定されていない	[日時]を設定してください。ご購入時には日時の設定はされていません（p.21）。
	バッテリーの残量がないまま放置していた	バッテリーの残量がない状態で約1日放置すると日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください（p.143）。
パソコンとのUSB接続がうまくいかない	[USB接続]モードがPictBridge（PictBridge）になっている	[USB接続]モードをPC（PC）に変更してください（p.153）。
プリンターとのUSB接続がうまくいかない	[USB接続]モードがPC（PC）になっている	[USB接続]モードをPictBridge（PictBridge）に変更してください（p.153）。
テレビでカメラの画像が再生できない	カメラを接続した映像入力端子が選択されていない	カメラを接続した映像入力端子を選択してください（p.97）。

7

付録

主な仕様

型式	ズームレンズ内蔵全自動コンパクトタイプデジタルスチルカメラ	
有効画素数	710万画素	
撮像素子	総画素数741万画素、 原色フィルター /インターライントランスファー 1/2.5型CCD	
記録画素数	写真	7M（3072×2304）、5M（2592×1944） 4M（2304×1728）、3M（2048×1536） 2M（1600×1200）、640（640×480）（ピクセル）
	動画	640（640×480）、320（320×240）（ピクセル）
ISO感度	オート、マニュアル（64/100/200/400/800/1600/3200）	
記録方式	写真	JPEG（Exif2.2）、DCF準拠、DPOF対応、 PictBridge対応、PRINT Image Matching III対応
	動画	MOV（Quick Time Motion JPEG）、ストリーミング記録、約30fps/約15fps（フレーム/秒）、PCM方式、モノラル音声付
	音声	ボイスメモ、ボイスレコード：WAVE（PCM）方式、モノラル
画質	写真	★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
	動画	★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
記録媒体	内蔵メモリー（約17.9MB）、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード	

撮影枚数と時間

写真

	★★★（S.ファイン）		★★（ファイン）		★（エコノミー）	
	内蔵メモリー	256MB	内蔵メモリー	256MB	内蔵メモリー	256MB
7M 3072×2304	約5枚	約69枚	約11枚	約134枚	約16枚	約200枚
5M 2592×1944	約7枚	約86枚	約14枚	約173枚	約22枚	約267枚
4M 2304×1728	約10枚	約121枚	約20枚	約242枚	約29枚	約346枚
3M 2048×1536	約12枚	約151枚	約25枚	約299枚	約36枚	約435枚
2M 1600×1200	約20枚	約242枚	約33枚	約401枚	約49枚	約586枚
640 640× 480	約79枚	約953枚	約116枚	約1386枚	約156枚	約1906枚

動画/音声

		30fps		15fps		音声	
		内蔵メモリー	256MB	内蔵メモリー	256MB	内蔵メモリー	256MB
640 640×480	★★★	約19秒	約3分47秒	約37秒	約7分28秒	約15分48秒	約3時間8分51秒
	★★	約25秒	約5分4秒	約49秒	約9分46秒		
	★	約38秒	約7分42秒	約1分15秒	約14分56秒		
320 320×240	★★★	約30秒	約6分3秒	約58秒	約11分33秒		
	★★	約41秒	約8分1秒	約1分19秒	約15分52秒		
	★	約58秒	約11分33秒	約1分56秒	約23分5秒		

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、白熱灯、蛍光灯、マニュアル	
レンズ	焦点距離	6.2mm～18.6mm（35mmフィルム換算:37.5mm～112.5mm相当）
	F値	F2.7～F5.2
	レンズ構成	5群6枚（非球面レンズ2枚使用）
	ズーム方式	電動式
	撮影範囲	約148mm×約111mmを画面いっぱいに撮影可能（マクロモード時）
デジタルズーム	撮影時	最大約4倍（光学3倍ズームと合わせ、最大約12倍ズーム相当のズーム倍率）
液晶モニター	タッチディスプレイ式3.0型TFTカラーLCD（バックライト付）、明るさ調整付、約23万画素	
再生機能	1コマ、インデックス（9画面）、フォルダ表示、カレンダー表示、拡大（最大8倍まで、スクロール可）、回転表示、音声再生、スライドショウ、動画再生・編集（静止画保存、動画分割、動画結合）、ヒストグラム表示（白とび黒つぶれ表示）、画像/音声コピー、デジタルフィルタ（ソフト、イラスト、スリム、特殊効果）、明るさフィルタ、カラーフィルタ（白黒、セピア、カラー8色、白黒+赤、白黒+青、白黒+緑）、トリミング、リサイズ、フレーム合成、フィッシュアイフィルター、赤目補正、お絵かきモード（線描画、スタンプ、画像切取、マイスタンプ、消しゴム）、ボイスメモ、プロテクト、DPOF、起動画面設定	
フォーカスモード	オートフォーカス、マクロ、パンフォーカス、無限遠、マニュアルフォーカス	

フォーカス	方式	撮像素子によるTTLコントラスト検出方式 9点AF（マルチ/スポット切替可）
	写真（レンズ前面から）	ノーマル：約0.4m～∞（ズーム全域） マクロ　：約0.15m～約0.5m（ワイド端） パンフォーカス： 約1.3m～∞（ワイド端）、 約5.3m～∞（テレ端） 遠景　　：∞（ズーム全域） マニュアルフォーカス： 約0.15m～∞（ワイド端）、 約0.4m～∞（テレ端）
	動画（レンズ前面から）	ノーマル：約0.4m～∞（ズーム全域） マクロ　：約0.15m～約0.5m（ワイド端） パンフォーカス： 約0.3m～∞（ワイド端）、 約1.3m～∞（テレ端） 遠景　　：∞（ズーム全域） マニュアルフォーカス： 約0.15m～∞（ワイド端）、 約0.4m～∞（テレ端）
	フォーカスロック	シャッターボタン半押しによる
露出機構	測光方式	撮像素子によるTTL測光（分割、中央部重点、スポット）
	露出補正	±2EV（1/3EVステップで設定可能）
撮影モード	オートピクチャー、プログラム、夜景、動画、風景、花、ポートレート、Digital SR、サーフ＆スノー、スポーツ、ペット、キッズ、フレーム合成、料理、テキスト、ボイスレコーディング	
動画	連続録画時間	約1秒～最大4GBのファイルサイズまで
シャッター	型式	メカニカル併用電子シャッター
	速度	約1/2000秒～約4秒
ストロボ	型式	赤目軽減機能付オートストロボ
	発光モード	オート（低照度時）、発光禁止、強制発光、オート+赤目軽減、強制発光+赤目軽減、ソフト発光
	撮影範囲	ワイド端 約0.15m～約6m（工場出荷時設定） テレ端 約0.4m～約3m（工場出荷時設定）
ドライブモード	1コマ撮影、セルフタイマー撮影（約10秒後、約2秒後）、連続撮影、オートブラケット（露出、ホワイトバランス、シャープネス、彩度、コントラスト）、リモコン（約3秒、即）	
セルフタイマー	電子制御式、制御時間：約10秒、約2秒	
リモコン	ペンタックス リモートコントロールE、F（別売） リモートコントロールEでは、リモコンによるズーム操作可	
時計機能	ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）

7
付録

電源	専用リチウムイオンバッテリー D-LI 63、ACアダプターキット（別売）	
バッテリー寿命	撮影可能枚数 約200枚	※ 撮影可能枚数は CIPA 規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA規格抜粋：液晶モニター ON、ストロボ使用率50%、23℃）
	再生時間 約170分	※ 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
最大充電時間	約120分	
入出力ポート	PC（USB）/AV端子、DC入力端子	
ビデオ出力方式	NTSC/PAL（モノラル音）	
PictBridge	対応プリンター	PictBridge対応のプリンター
	印刷モード	1画像印刷、全画像印刷、DPOF印刷
	用紙サイズ指定	カード、L、2L、ハガキ、100mm×150mm、4"×6"、8"×10"、レター、11"×17"、A4、A3、プリンター設定
	用紙タイプ指定	★★★、★★、★、プリンター設定
	印刷品質設定	★★★、★★、★、プリンター設定
	ふち指定	あり、なし、プリンター設定
大きさ	93.5（幅）× 57（高）× 19（厚）mm（操作部、突起部を除く）	
質量	120g（バッテリー、SDメモリーカード含まず）	
撮影時質量	135g（バッテリー、SDメモリーカード含む）	
主な付属品	専用バッテリー、バッテリー充電器、ACコード、USBケーブル、AVケーブル、ソフトウェア（CD-ROM）、ストラップ、スタイラスペン、使用説明書、保証書	

索引

7 付録

アフターサービスについて

1 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満 1 年間無料修理致しますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
- 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
- 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
- 火災・天災・地変等による故障。
- 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
- 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
- お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。

6 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］

7 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（一部の離島を除く）どこからでも均一料金で修理品梱包資材のお届け・修理品のお引取りから、修理完成品のお届けまでを一括して提供する便利なサービスです。

電話受付

0120-737-919（フリーダイヤル）
03-3975-4314（携帯・PHS用）
受付時間：　午前9:00〜午後5:00
（土・日・祝日・年末年始および弊社休業日を除く）

インターネット受付

URL：https://www.pentax.co.jp/japan/support/

FAX受付

FAX：03-3975-4318
インターネット受付のURLアドレスからFAX申込書をダウンロードしてお使いください。

[宅配便・郵便修理受付・修理に関するお問い合わせ]

ペンタックスサービス（株）東日本修理センター　03-3975-4341（代）
〒175-0082　東京都板橋区高島平6-6-2
ペンタックス（株）流通センター内
営業時間：　午前9:00〜午後5:00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ペンタックスサービス（株）西日本修理センター　06-6271-7996（代）
〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階
営業時間：　午前9:00〜午後5:00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス **http://www.pentax.co.jp/**

弊社製品に関するお問い合わせ

お客様相談センター **ナビダイヤル 0570-001313**
（市内通話料金でご利用いただけます。）

携帯電話、PHS の方は、右記の電話番号をご利用ください。 **☎03-3960-3200（代）**

〒174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9
営業時間 ：午前 9:00 ～午後 6:00（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

ショールーム・写真展・修理受付

ペンタックスフォーラム **☎03-3348-2941（代）**

〒163-0401 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビル 1 階（私書箱 240 号）
営業時間 ：午前 10:30 ～午後 6:30（年末年始および三井ビル点検日を除き年中無休）

ペンタックスファミリーのご案内

「写真をもっと楽しむために…」

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の全国的な写真クラブです。会員の方には、年４回発行の機関誌「Pentax Family」や年１回発行の「ペンタックス写真年鑑」などの刊行物をお届けするほか、写真セミナーなどのイベントへの参加や修理料金の会員割引等の様々な特典をご用意しています。あなたも「ペンタックスファミリー」で素晴らしい写真の世界をお楽しみください。

ペンタックスファミリー事務局 **☎03-3960-5740（代）**
〒174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9
営業時間 ：午前 9:00 ～午後 5:30（土・日・祝日および弊社休業日を除く）
ペンタックスファミリーホームページアドレス http://www.pentax.co.jp/family/

ユーザー登録のお願い
お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属しています CD-ROM と弊社ホームページから登録が可能です。
同梱の「PC 接続ガイド」（表面右下）をご参照ください。

for your
precious moments

ペンタックス株式会社
〒174-8639 東京都板橋区前野町 2-36-9

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

57882 01-200702
Printed in Indonesia